

令和7年度
全国学力・学習状況調査

調査結果のポイント

北海道（公立）における調査結果

北海道教育委員会
令和7年（2025年）7月31日

【 目 次 】

1. 調査の概要	1
2. 結果の概要	
■ 教科に関する調査〔国語、算数・数学、理科〕	3
■ 質問調査〔生活習慣や学習環境等に関する項目〕	4
3. 教科に関する調査	
■ 小学校国語	5
■ 小学校算数	7
■ 小学校理科	9
■ 中学校国語	11
■ 中学校数学	13
■ 中学校理科	15
■ 各教科の正答率・IRTスコアの分布	17
4. 質問調査〔生活習慣や学習環境等に関する項目〕	18
5. 質問調査〔ウェルビーイングの向上に関する項目〕	26
【参考】札幌市を除く北海道の調査結果	36

1. 調査の概要

1 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査の対象

- 小学校、義務教育学校前期課程、特別支援学校小学部の第6学年の児童
- 中学校、義務教育学校後期課程、中等教育学校前期課程、特別支援学校中学部の第3学年の生徒

3 調査の内容

- 教科に関する調査〔国語、算数・数学、理科〕
 - ・国語、算数・数学及び小学校理科は、冊子を用いた筆記方式
 - ・中学校理科は、生徒が活用するICT端末等を用いた、文部科学省CBTシステム(MEXCBT)によるオンライン方式

次の①と②を一体的に問う調査問題

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等
- 質問調査〔生活習慣や学習環境等に関する項目〕
 - ① 児童生徒に対する調査(学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査)
 - ② 学校に対する調査(指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査)

4 調査の方式

悉皆調査

5 調査実施日

- 教科に関する調査〔国語、算数・数学、理科〕
 - ・国語、算数・数学及び小学校理科
令和7年(2025年)4月17日(木)
 - ・中学校理科
令和7年(2025年)4月14日(月)から4月17日(木)までの間で、文部科学省が指定する日
- 質問調査〔生活習慣や学習環境等に関する項目〕
令和7年(2025年)4月の一定期間内にオンライン方式により実施

6 調査実施日に調査を実施した学校数・児童生徒数

北海道(公立)

	対象学校数(校)	実施学校数(校)(実施率)	児童生徒数(人)
小学校	923	917(99.3%)	34,220
中学校	564	557(98.8%)	33,474
合 計	1,487	1,474(99.1%)	67,694

〔参考〕全国(公立)

	対象学校数(校)	実施学校数(校)(実施率)	児童生徒数(人)
小学校	18,313	18,289(99.9%)	936,576
中学校	9,311	9,291(99.8%)	871,097
合 計	27,624	27,580(99.8%)	1,807,673

※ 札幌市を含む

※ 実施学校数は、調査実施日に調査を実施した数

※ 児童生徒数は、教科に関する調査のうち、最も多くの児童生徒が実施した教科の人数で算出

【調査結果の解釈等に関する留意事項】

- 本調査の結果については、児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることや、学校における教育活動の一側面に過ぎないことに留意する必要がある。
- 本調査の結果においては、平均正答数、平均正答率等の数値を示しているが、これらの数値のみで必ずしも調査結果の全てを表すものではなく、中央値^{*1}、標準偏差^{*2}等の数値や分布の状況を表すグラフの形状など他の情報と合わせて総合的に結果を分析・評価する必要がある。また、個々の設問や領域等に着目して学習指導上の課題を把握・分析し、児童生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることも重要である。
- 北海道の各教科の平均正答率については、国が公表した整数値と、国から提供されたデータをもとに北海道教育委員会が独自に算出した小数値で示している。
- 調査結果を多面的に解釈することができる示し方として、教科に関する調査結果のデータの分布を「箱ひげ図」^{*3}で掲載している。

^{*1} 中央値：集団のデータを大きさの順に並べたときに、真ん中に位置する値。平均値とともに集団における代表値として捉えられる。

^{*2} 標準偏差：集団のデータの平均値からの離れ具合（散らばりの度合い）を表す数値。標準偏差が0とは、ばらつきがない（データの値が全て同じ）ことを意味する。

^{*3} 箱ひげ図：総務省統計局「なるほど統計学園」のWebページを参照

https://www.stat.go.jp/naruhodo/4_graph/shokyu/hakohige.html

【「中学校理科」IRTに基づく調査】

「中学校理科」の結果は、これまでの正答数・率に代えて、IRTスコア・バンドで表示・返却

※IRT (Item Response Theory: 項目反応理論) とは、国際的な学力調査 (PISA、TIMSS など) や英語資格・検定試験 (TOEIC・TOEFL など) で採用されているテスト理論であり、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし (尺度) で比較できる。

- 問題の構成
 - ・生徒1人当たり、公開問題10問と非公開問題16問を出題。
 - ・公開問題には全日程に共通する問題(6問)と実施日別の問題(4問)がある。
 - ・非公開問題は幅広い内容・難易度等から出題され、生徒ごとに異なる問題を解いている。
- IRTスコア・IRTバンド
 - ・IRTスコアは、IRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すもの。
 - ・IRTバンドは、IRTスコアを1～5の5段階に区切ったものであり、3を基準のバンドとし、5が最も高いバンドとなる。
 - ・IRTスコア・IRTバンドは、難易度の高い問題に正答していると高めに、難易度の低い問題に誤答していると低めに算出される。

※IRTに基づく調査結果を今後の学習指導に活用する際に参考となるリーフレットや動画等

・「中学校理科」IRTを用いた結果返却に関する動画・リーフレット(文部科学省)

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/gakuryoku-chousa/zenkoku/mext_03311.html



2. 結果の概要

■ 教科に関する調査〔国語・算数・数学・理科〕

○ 平均正答率・平均IRTスコアの比較

- ・小学校は、全ての教科で全国との差が2.8ポイント以内(令和6年度2.8ポイント以内)
- ・中学校は、国語及び数学で全国との差が1.6ポイント以内(令和6年度1.5ポイント以内)
- ・中学校理科は、全国を上回った

【各教科の平均正答率、平均正答数及び平均IRTスコア】

※R7中学校理科は平均IRTスコア

			小学校			中学校		
			国語	算数	理科	国語	数学	理科
平均正答率 (%)	R7	道	65 [65.4]	55 [55.2]	56 [56.3]	54 [54.0]	47 [46.7]	505
		国	67 [66.8]	58 [58.0]	57 [57.1]	54 [54.3]	48 [48.3]	503
	R6 (R4)	道	67 [66.8]	61 [60.6]	63 [62.9]	58 [57.6]	51 [51.0]	49 [49.0]
		国	68 [67.7]	63 [63.4]	63 [63.3]	58 [58.1]	53 [52.5]	49 [49.3]
平均正答数 (問)	R7	道	9.2 /14	8.8 /16	9.6 /17	7.6 /14	7.0 /15	—
		国	9.4 /14	9.3 /16	9.7 /17	7.6 /14	7.2 /15	—
	R6 (R4)	道	9.3 /14	9.7 /16	10.7 /17	8.6 /15	8.2 /16	10.3 /21
		国	9.5 /14	10.1 /16	10.8 /17	8.7 /15	8.4 /16	10.4 /21

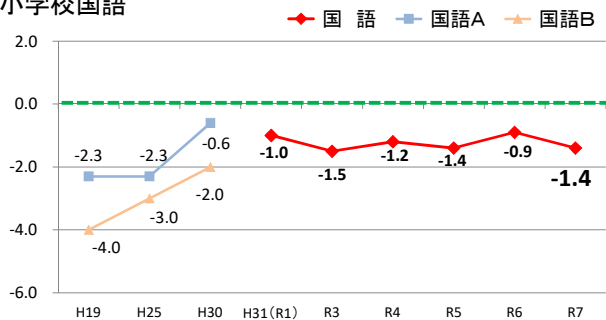
※ 道の平均正答率：国が公表した整数値〔道教委が独自に算出した小数値〕

※ 国の平均正答率：国が公表した小数値を、小数第1位で四捨五入した整数値〔国が公表した小数値〕

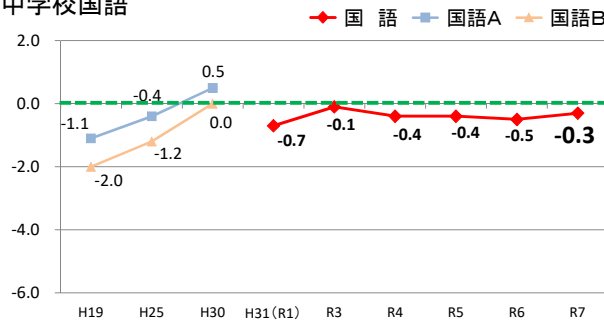
※ 国語、算数・数学については、下段は令和6年度の結果、理科については、下段は前回調査のあった令和4年度の結果

【全国と北海道の平均正答率・平均IRTスコアの差】

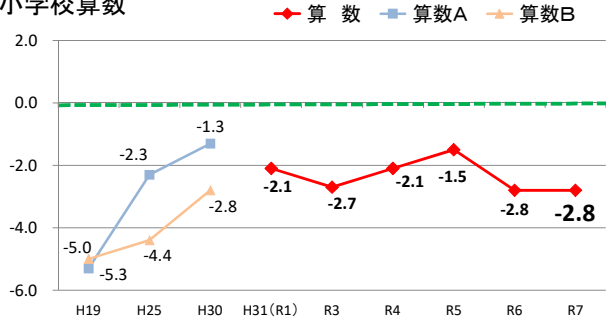
小学校国語



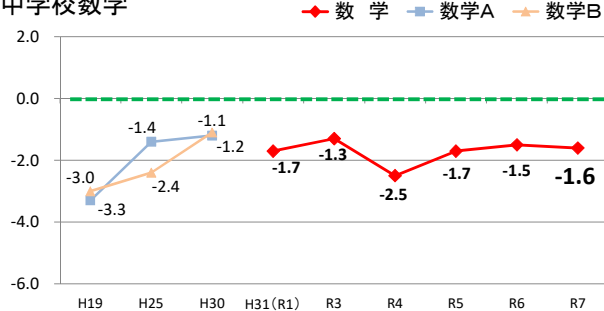
中学校国語



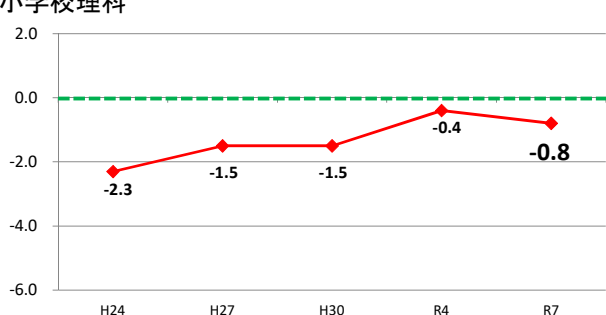
小学校算数



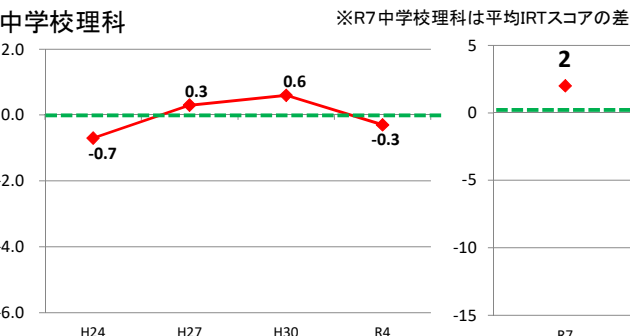
中学校数学



小学校理科



中学校理科



※ 数値は、「北海道(公立)の平均正答率(平均IRTスコア)－全国(公立)の平均正答率(平均IRTスコア)」の差で算出。

※ 国語、算数・数学については、平成19年度から平成30年度まで、主として「知識」に関する問題(A)及び主として「活用」に関する問題(B)を実施。平成31年度(令和元年度)から、「知識」と「活用」を一体的に問う問題に変更して実施。

■ 質問調査〔生活習慣や学習環境等に関する項目〕

質 問 項 目			校 種	北海道の結果(%)		全国比	
				R7	R6	R7	R6
検証改善 サイクルの 確立	学 校	① 児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していると回答した学校の割合(小15、中15)	小	62.1	57.9	+17.8	+17.5
			中	59.7	57.6	+19.6	+17.1
		② 令和6年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用したと回答した学校の割合(小83、中83)	小	61.2	57.8	+23.9	+23.2
			中	55.8	51.6	+26.4	+24.5
授業改善	児 童	③ 前年度までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、ほぼ毎日使用したと回答した児童生徒の割合(小28、中28)	小	57.5	32.5	+10.8	+7.2
			中	62.0	34.8	+8.8	+3.8
		④ 前年度までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと回答した児童生徒の割合(小32、中32)	小	28.8	28.3	-0.2	-1.2
			中	23.8	25.7	+0.4	-1.5
	生 徒	⑤ 前年度までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていたと回答した児童生徒の割合(小34、中34)	小	34.8	33.6	+0.4	-0.8
			中	22.0	23.7	-0.1	-1.2
		⑥ 学級の友達〔生徒〕との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていたと回答した児童生徒の割合(小35、中35)	小	43.0	42.3	+2.1	+0.9
			中	37.2	37.7	+2.1	+1.3
		⑦ 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていたと回答した児童生徒の割合(小36、中36)	小	29.8	30.0	-1.4	-1.9
			中	22.5	25.5	-0.5	-1.6
	学 校	⑧ 前年度までに受けた授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいたと回答した児童生徒の割合(小39、中39)	小	50.9	47.0	+1.0	-0.8
			中	47.3	47.8	+1.8	+1.7
		⑨ 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、授業において、児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れたと回答した学校の割合(小32、中32)	小	44.7	39.4	+13.1	+10.2
			中	35.3	30.4	+7.8	+4.3
		⑩ 調査対象学年の児童生徒同士がやりとりする場面では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、ほぼ毎日使用したと回答した学校の割合(小62、中62)	小	36.3	32.7	+14.9	+15.3
			中	29.2	24.2	+12.1	+7.3
小中連携 の推進	学 校	⑪ 前年度までに、近隣等の中学校〔小学校〕と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組をよく行っていると回答した学校の割合(小72、中72)	小	31.5	30.5	+11.0	+11.7
			中	43.5	35.7	+15.2	+10.9
望ましい 学習習慣 の確立	児 童 生 徒	⑫ 学校の授業時間以外に、普段、1日当たり1時間以上、勉強すると回答した児童生徒の割合(小17、中17)	小	47.9	52.4	-6.1	-2.2
			中	53.5	57.0	-8.1	-7.3
		⑬ 学校の授業時間以外に、普段、1日当たり1時間以上、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていると回答した児童生徒の割合(小18、中18)	小	19.2	21.2	-0.4	+1.4
			中	13.3	17.0	-0.4	+0.4
	学 校	⑭ 児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を、毎日持ち帰って家庭で利用できるようにしていると回答した学校の割合(小66、中66)	小	25.4	21.1	+0.2	-0.8
			中	33.5	30.6	+6.0	+4.0
		⑮ 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、学校では、家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えたと回答した学校の割合(小80、中80)	小	68.8	65.6	+19.5	+18.4
			中	42.6	41.2	+8.1	+8.3
		⑯ 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、学校では、児童生徒が行った家庭学習の課題について、その後の教員の指導改善や児童生徒の学習改善に生かしたと回答した学校の割合(小82、中82)	小	48.5	43.7	+17.5	+16.0
			中	31.0	29.5	+9.2	+7.9

※(校種 番号)は質問番号

※北海道の結果は最も肯定的に回答した割合。ただし、③、⑫、⑬は質問項目のとおり回答した割合。

(グラフはP18～P25に掲載)

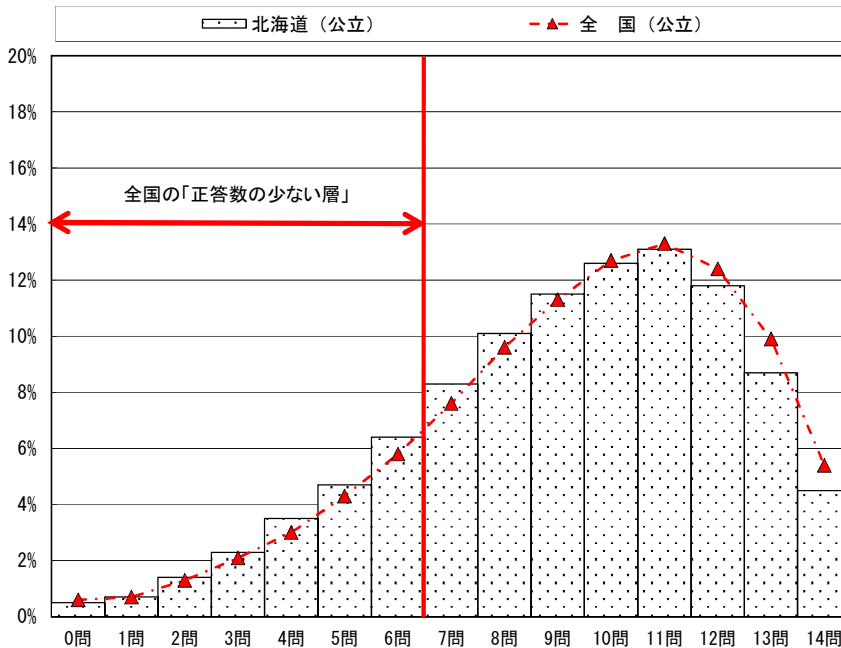
3. 教科に関する調査

■ 小学校国語

○ 概要

- ・ 平均正答率は65[65.4]%
- ・ 平均正答率の小数值での比較では、全国との差は、-1.4ポイント

	児童数(人)	平均正答数(問)	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
北海道(公立)	34,203	9.2 / 14	65 [65.4]	10.0	3.0
全 国(公立)	936,137	9.4 / 14	67 [66.8]	10.0	3.0



正答数 (児童の割合(%))			
正答数 (正答率)	北海道	全 国	
14 問 (100.0%)	4.5	5.4	A 層
13 問 (92.9%)	8.7	9.9	
12 問 (85.7%)	11.8	12.4	
△ 11 問 (78.6%)	13.1	13.3	B 層
◇ 10 問 (71.4%)	12.6	12.7	
9 問 (64.3%)	11.5	11.3	C 層
8 問 (57.1%)	10.1	9.6	
▽ 7 問 (50.0%)	8.3	7.6	D 層
6 問 (42.9%)	6.4	5.8	
5 問 (35.7%)	4.7	4.3	
4 問 (28.6%)	3.5	3.0	
3 問 (21.4%)	2.3	2.1	
2 問 (14.3%)	1.4	1.3	
1 問 (7.1%)	0.7	0.7	
0 問 (0.0%)	0.5	0.6	

(割合は小数第2位以下を四捨五入)

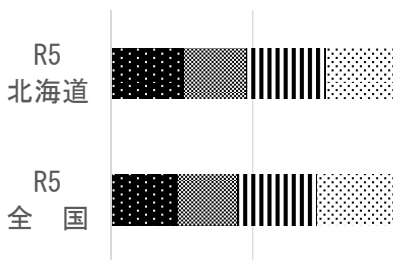
四分位		
	北海道	全 国
第3四分位	△11.0問	12.0問
第2四分位	◇10.0問	10.0問
第1四分位	▽7.0問	7.0問

※ 児童を正答数の大きい順に整列し、人数の割合により4つの層に分ける際の分け目を、大きいものから順に「第3四分位」「第2四分位」「第1四分位」として示した。

■ は、全国の「第1四分位」未満の正答数の児童の割合。

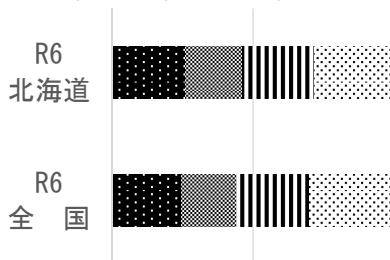
【正答数の層分布】

■ 0-7問 ■ 8-9問 ■ 10-11問 ■ 12-14問



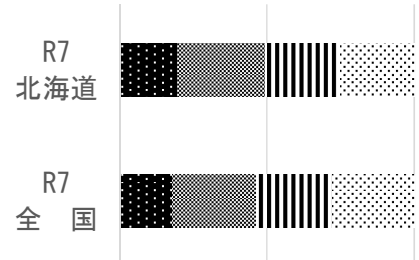
	D層	C層	B層	A層
	0-7問	8-9問	10-11問	12-14問
R5北海道 (%)	26.0	22.1	27.9	24.1
R5全 国 (%)	23.9	20.8	28.1	27.1

■ 0-7問 ■ 8-9問 ■ 10-11問 ■ 12-14問



	D層	C層	B層	A層
	0-7問	8-9問	10-11問	12-14問
R6北海道 (%)	26.1	20.0	25.8	28.0
R6全 国 (%)	24.6	19.6	25.8	30.0

■ 0-6問 ■ 7-9問 ■ 10-11問 ■ 12-14問



	D層	C層	B層	A層
	0-6問	7-9問	10-11問	12-14問
R7北海道 (%)	19.5	29.9	25.7	25.0
R7全 国 (%)	17.8	28.5	26.0	27.7

【問題別調査結果】 小学校国語

集計結果

対象学校数		北海道(公立)	全 国(公立)	対象児童数	北海道(公立)	全 国(公立)
		917	18,265		34,203	936,137
分類		区分		対象問題数 (問)	平均正答率(%)	
					北海道(公立)	全 国(公立)
全体				14	65[65.4]	66.8
学習指導 要領の 内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に關する事項	2	74.8	76.9	
		(2) 情報の扱い方に關する事項	1	61.8	63.1	
		(3) 我が国の言語文化に關する事項	1	80.6	81.2	
	思考力、 判断力、 表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	65.0	66.3	
		B 書くこと	3	68.3	69.5	
		C 読むこと	4	56.1	57.5	
評価の観点		知識・技能	4	73.0	74.5	
		思考・判断・表現	10	62.4	63.8	
		主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式		選択式	9	63.3	64.7	
		短答式	3	76.8	78.5	
		記述式	2	58.1	58.8	

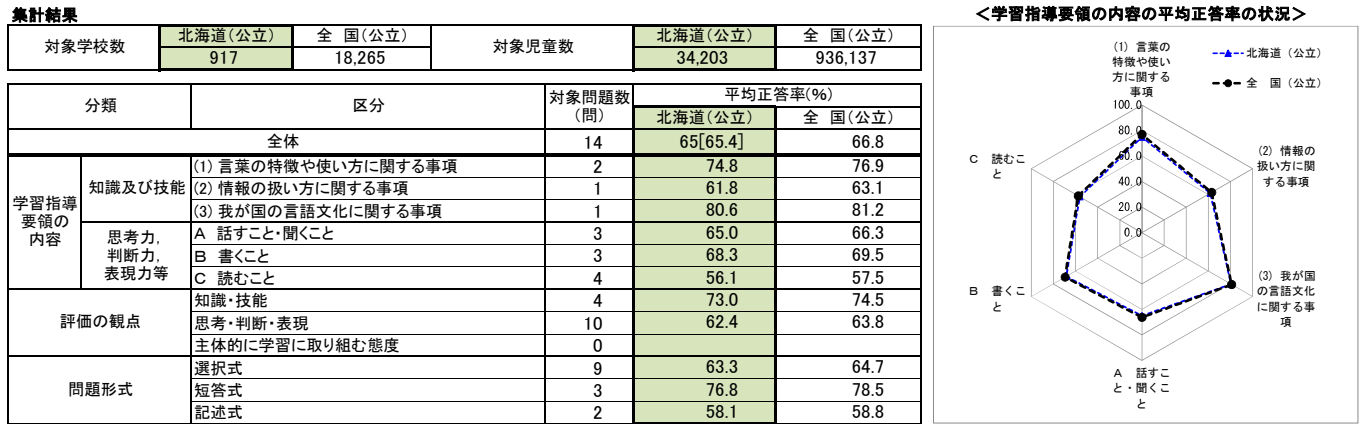
※「学習指導要領の内容」と「評価の観点」については、一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合がある。

問題別集計結果

問題 番号	問題の概要	学習指導要領の内容						評価の観点			問題形式			正答率 (%)		無解答率 (%)	
		知識及び技能			思考力、 判断力、 表現力等												
		(1) 言葉 の特徴 や使い 方に 関する 事項	(2) 情報 の扱い 方に 関する 事項	(3) 我が 国の 言語 文化 に 関する 事項	A 話 す こ と ・ 聞 く こ と	B 書 く こ と	C 読 む こ と	知 識 ・ 技 能	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度	選 択 式	短 答 式	記 述 式	北 海 道 （ 公 立 ）	全 国 （ 公 立 ）	北 海 道 （ 公 立 ）	全 国 （ 公 立 ）
1一	【話し合いの様子】における小森さんの傍線部の発言を説明したものとして適切なものを選択する				5・6 ア			○		○			51.2	53.3	0.4	0.5	
1二	【話し合いの記録】の書き表し方を説明したものとして適切なものを選択する		5・6 イ					○		○			61.8	63.1	0.3	0.5	
1三 (1)	【インタビューの様子の一部】で小森さんが傍線部アのように発言した目的として適切なものを選択する				5・6 エ			○		○			71.2	71.8	0.4	0.6	
1三 (2)	【インタビューの様子の一部】で小森さんが傍線部イのように発言した理由として適切なものを選択する				5・6 エ			○		○			72.6	73.7	0.4	0.6	
2一	【ちらし】の文章の構成の工夫を説明したものとして適切なものを選択する					3・4 イ		○		○			64.1	65.5	0.7	0.8	
2二	山田さんが手ぬぐいの模様について言葉と図で説明した理由として適切なものを選択する				5・6 エ			○		○			80.2	81.8	0.7	0.8	
2三	【ちらし】の二重傍線部を、【調べたこと】を基に詳しく書く					5・6 ウ		○			○		60.4	61.3	5.4	5.0	
2四ア	【ちらし】の下線部アを、漢字を使って書き直す (このみ)	5・6 エ						○			○		81.6	81.6	7.2	7.2	
2四イ	【ちらし】の下線部イを、漢字を使って書き直す (あつい日)	5・6 エ						○			○		68.1	72.1	4.7	4.3	
3一	【資料1】を読んで思い出した【木村さんの経験】を通して、木村さんが気付いたこととして適切なものを選択する			5・6 ウ				○		○			80.6	81.2	1.0	1.3	
3二 (1)	【木村さんのメモ】の空欄アに入る適切な言葉を【資料2】の中から書き抜く						1・2 ア	○			○		80.6	81.6	2.6	2.9	
3二 (2)	【資料3】を読み、【木村さんのメモ】の空欄イに当てはまる内容として適切なものを選択する						5・6 ア	○		○			48.1	51.3	2.0	2.4	
3三 (1)	【話し合いの様子】の田中さんの発言の空欄Aに当てはまる内容として適切なものを選択する						5・6 ウ	○		○			39.6	40.8	2.9	3.4	
3三 (2)	【資料1】を読み返して言葉の変化について自分が納得したことを、【資料2】、【資料3】、【資料4】に書かれていることを理由にしてまとめて書く						5・6 ウ	○			○		55.8	56.3	16.1	16.2	

※太枠は、全国以上の平均正答率及び全国以下の無解答率

	R5	R6	R7
平均正答率が全国以上の問題数	1／14問	2／14問	1／14問
無解答率が全国以下の問題数	9／14問	11／14問	12／14問
無解答率が5%以上の問題数	5／14問	5／14問	3／14問

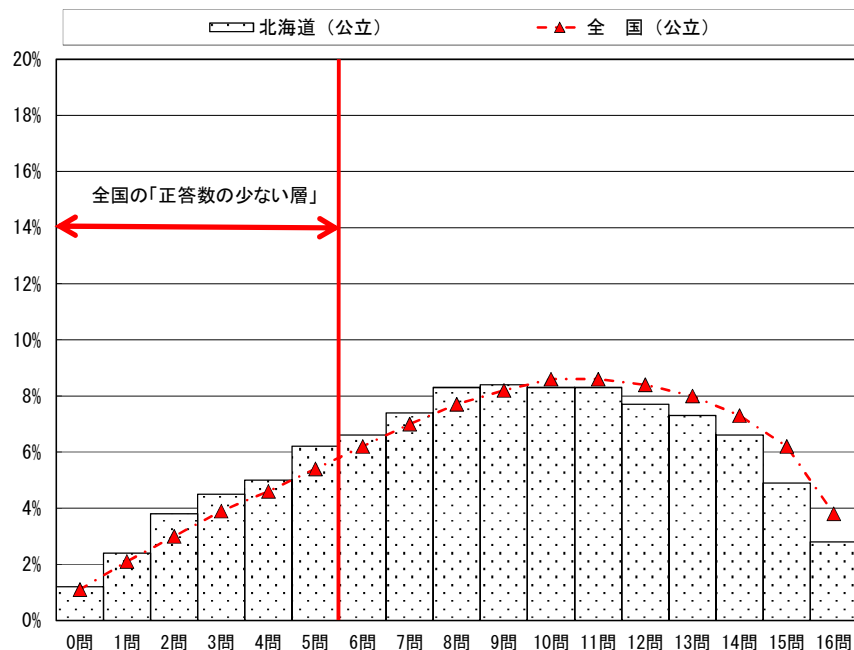


■ 小学校算数

○ 概要

- 平均正答率は55[55.2]%
- 平均正答率の小数值での比較では、全国との差は、-2.8ポイント

	児童数(人)	平均正答数(問)	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
北海道(公立)	34,203	8.8 / 16	55 [55.2]	9.0	4.0
全国(公立)	936,399	9.3 / 16	58 [58.0]	10.0	4.0



正答数 (児童の割合(%))			
正答数 (正答率)	北海道	全国	
16 問 (100.0%)	2.8	3.8	A 層
15 問 (93.8%)	4.9	6.2	
14 問 (87.5%)	6.6	7.3	
13 問 (81.3%)	7.3	8.0	B 層
12 問 (75.0%)	7.7	8.4	
11 問 (68.8%)	8.3	8.6	C 層
10 問 (62.5%)	8.3	8.6	
9 問 (56.3%)	8.4	8.2	D 層
8 問 (50.0%)	8.3	7.7	
7 問 (43.8%)	7.4	7.0	
6 問 (37.5%)	6.6	6.2	
5 問 (31.3%)	6.2	5.4	
4 問 (25.0%)	5.0	4.6	
3 問 (18.8%)	4.5	3.9	
2 問 (12.5%)	3.8	3.0	
1 問 (6.3%)	2.4	2.1	
0 問 (0.0%)	1.2	1.1	

(割合は小数第2位以下を四捨五入)

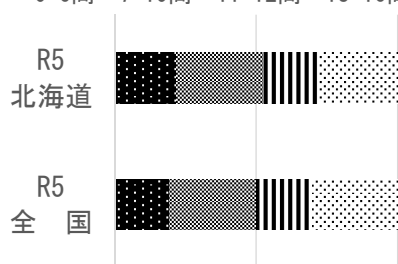
四分位		
	北海道	全国
第3四分位	△12.0問	13.0問
第2四分位	◇9.0問	10.0問
第1四分位	▽6.0問	6.0問

※ 児童を正答数の大きい順に整列し、人数の割合により4つの層に分ける際の分け目を、大きいものから順に「第3四分位」「第2四分位」「第1四分位」として示した。

■ は、全国の「第1四分位」未満の正答数の児童の割合。

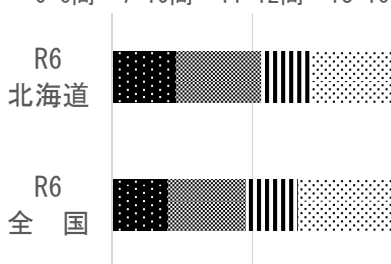
【正答数の層分布】

■ 0-6問 ■ 7-10問 ■ 11-12問 ■ 13-16問



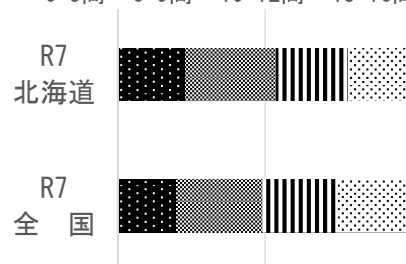
	D層	C層	B層	A層
	0-6問	7-10問	11-12問	13-16問
R5北海道 (%)	21.9	30.9	19.6	27.9
R5全国 (%)	19.5	30.6	20.1	30.0

■ 0-6問 ■ 7-10問 ■ 11-12問 ■ 13-16問



	D層	C層	B層	A層
	0-6問	7-10問	11-12問	13-16問
R6北海道 (%)	23.0	30.1	18.2	28.7
R6全国 (%)	20.1	27.7	18.4	33.7

■ 0-5問 ■ 6-9問 ■ 10-12問 ■ 13-16問



	D層	C層	B層	A層
	0-5問	6-9問	10-12問	13-16問
R7北海道 (%)	23.1	30.7	24.3	21.6
R7全国 (%)	20.1	29.1	25.6	25.3

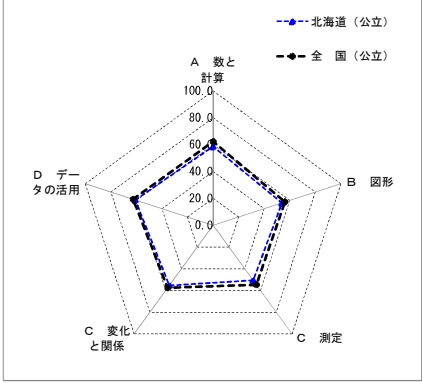
【問題別調査結果】 小学校算数

集計結果

対象学校数	北海道(公立)	全 国(公立)	対象児童数	北海道(公立)	全 国(公立)
	917	18,265		34,203	936,399
分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
			北海道(公立)	全 国(公立)	
全体		16	55[55.2]	58.0	
学習指導要領の領域	A 数と計算	8	58.6	62.3	
	B 図形	4	53.9	56.2	
	C 測定	2	50.7	54.8	
	C 変化と関係	3	55.4	57.5	
	D データの活用	5	60.9	62.6	
評価の観点	知識・技能	9	62.6	65.5	
	思考・判断・表現	7	45.5	48.3	
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	6	66.4	67.2	
	短答式	6	59.7	64.0	
	記述式	4	31.4	34.9	

※「学習指導要領の領域」と「評価の観点」については、一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合がある。

＜学習指導要領の領域の平均正答率の状況＞



問題別集計結果

問題 番号	問題の概要	学習指導要領の領域					評価の観点			問題形式			正答率 (%)		無解答率 (%)	
		A 数と 計算	B 図形	C 測定	C 変化 と関係	D データ の活用	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	北海道 (公立)	全 国 (公立)	北海道 (公立)	全 国 (公立)
1(1)	2022年の全国のブロッコリーの出荷量が2002年の全国のブロッコリーの出荷量の約何倍かを、棒グラフから読み取って選ぶ	3(4) ア(ア)				3(1) ア(イ)	○			○			77.1	78.7	0.3	0.4
1(2)	都道府県Aのブロッコリーの出荷量が増えたかどうかを調べるために、適切なグラフを選び、出荷量の増減を判断し、そのわけを書く					3(1) ア(イ) 5(1) ア(ア) イ(ア)	○				○		28.8	31.0	0.8	0.9
1(3)	示された表から、「春だいこん」や「秋冬だいこん」より「夏だいこん」の出荷量が多い都道府県を選ぶ					3(1) ア(ア)	○			○			72.1	71.6	3.3	3.5
1(4)	示された資料から、必要な情報を選び、ピーマン1個とブロッコリー4個の重さを求める式と答えを書く	4(6) ア(ア) イ(ア)					○			○			71.2	74.5	2.9	2.6
2(1)	示された平行四辺形をかくために、コンパスの開く長さを書き、コンパスの針を刺す場所を選ぶ		4(1) ア(イ)				○			○			54.4	58.3	1.3	1.2
2(2)	方眼上の五つの図形の中から、台形を選ぶ		4(1) ア(イ)				○			○			50.5	50.2	0.7	0.7
2(3)	角をつくる二つの辺をそれぞれのばした図形の角の大きさについてわかることを選ぶ		4(5) ア(ア)				○			○			76.8	79.3	1.0	1.0
2(4)	五角形の面積を求めるために五角形を二つの図形に分割し、それぞれの図形の面積の求め方を書く		5(3) ア(ア) ※					○			○		33.8	37.0	2.6	2.7
3(1)	0.4+0.05について、整数の加法で考えときの共通する単位を書く	4(4) ア(イ) ア(ウ)					○			○			71.5	74.1	3.1	2.8
3(2)	3/4+2/3について、共通する単位分数と、3/4と2/3が、共通する単位分数の幾つ分になるかを書く	5(5) ア(ア) イ(ア)						○			○		18.6	23.0	18.1	15.7
3(3)	数直線上に示された数を分数で書く	3(6) ア(ア) ア(イ)					○			○			31.3	35.0	8.3	7.8
3(4)	1/2+1/3を計算する	5(5) ア(ア)					○			○			73.0	81.3	5.1	4.1
4(1)	新品のハンドソープが空になるまでに何プッシュすることができるのかを調べるために、必要な事柄を選ぶ	3(4) ア(ア)			4(1) イ(ア)	5(2) ア(ア)	○			○			82.0	82.8	2.7	2.6
4(2)	使いかけのハンドソープがあと何プッシュすることができるのかを調べるために、必要な事柄を判断し、求め方を書く	3(4) ア(ア)		3(1) ア(ア)	4(1) イ(ア)	5(2) ア(ア)	○				○		44.3	48.7	3.4	3.4
4(3)	はかりが示された場で、はかりの目盛りを読む			3(1) ア(イ)			○			○			57.0	60.9	4.5	4.2
4(4)	10%増量したつめかえ用のハンドソープの内容量が、増量前の何倍かを選ぶ				5(3) イ(ア)		○			○			40.0	40.9	4.4	4.1

※太枠は、全国以上の平均正答率
及び全国以下の無解答率

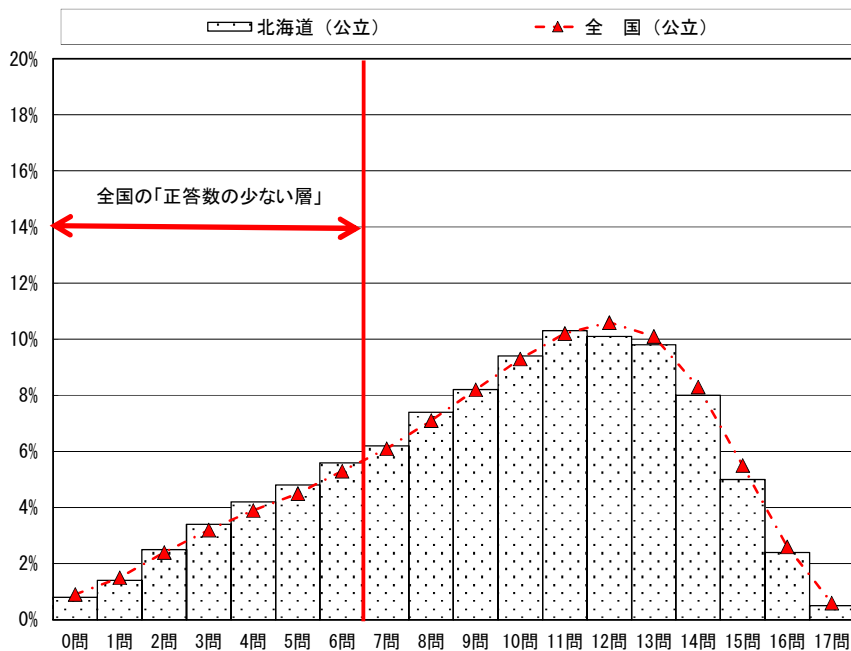
	R5	R6	R7
平均正答率が全国以上の問題数	2/16問	0/16問	2/16問
無解答率が全国以下の問題数	2/16問	8/16問	7/16問
無解答率が5%以上の問題数	2/16問	3/16問	3/16問

■ 小学校理科

○ 概要

- 平均正答率は56[56.3]%
- 平均正答率の小数值での比較では、全国との差は、-0.8ポイント

	児童数(人)	平均正答数(問)	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
北海道(公立)	34,220	9.6 / 17	56 [56.3]	10.0	3.8
全国(公立)	936,576	9.7 / 17	57 [57.1]	10.0	3.8



正答数 (児童の割合(%))			
正答数 (正答率)	北海道	全国	
17 問 (100.0%)	0.5	0.6	A 層
16 問 (94.1%)	2.4	2.6	
15 問 (88.2%)	5.0	5.5	
14 問 (82.4%)	8.0	8.3	
13 問 (76.5%)	9.8	10.1	B 層
12 問 (70.6%)	10.1	10.6	
11 問 (64.7%)	10.3	10.2	C 層
10 問 (58.8%)	9.4	9.3	
9 問 (52.9%)	8.2	8.2	D 層
8 問 (47.1%)	7.4	7.1	
7 問 (41.2%)	6.2	6.1	
6 問 (35.3%)	5.6	5.3	
5 問 (29.4%)	4.8	4.5	
4 問 (23.5%)	4.2	3.9	
3 問 (17.6%)	3.4	3.2	
2 問 (11.8%)	2.5	2.4	
1 問 (5.9%)	1.4	1.5	
0 問 (0.0%)	0.8	0.9	

(割合は小数第2位以下を四捨五入)

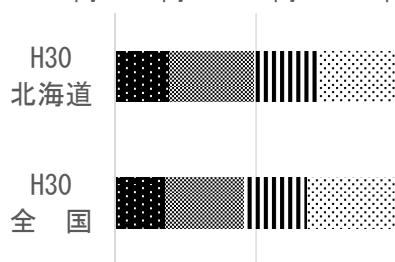
四分位		
	北海道	全国
第3四分位	△13.0問	13.0問
第2四分位	◇10.0問	10.0問
第1四分位	▽7.0問	7.0問

※ 児童を正答数の大きい順に整列し、人数の割合により4つの層に分ける際の分け目を、大きいものから順に「第3四分位」「第2四分位」「第1四分位」として示した。

■ は、全国の「第1四分位」未満の正答数の児童の割合。

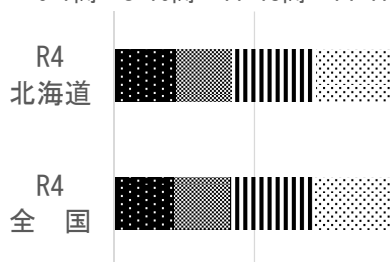
【正答数の層分布】

■ 0-6問 ■ 7-9問 ■ 10-11問 ■ 12-16問



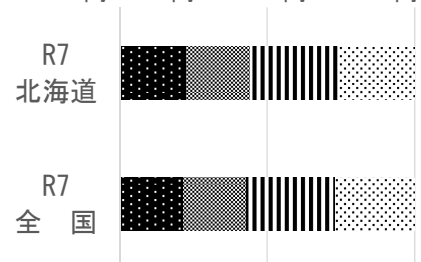
	D層	C層	B層	A層
	0-6問	7-9問	10-11問	12-16問
H30北海道 (%)	19.4	30.1	22.4	28.0
H30全国 (%)	18.0	28.2	22.1	31.8

■ 0-7問 ■ 8-10問 ■ 11-13問 ■ 14-17問



	D層	C層	B層	A層
	0-7問	8-10問	11-13問	14-17問
R4北海道 (%)	22.3	20.0	29.8	27.9
R4全国 (%)	21.5	19.9	29.9	28.6

■ 0-6問 ■ 7-9問 ■ 10-12問 ■ 13-17問



	D層	C層	B層	A層
	0-6問	7-9問	10-12問	13-17問
R7北海道 (%)	22.7	21.8	29.8	25.7
R7全国 (%)	21.7	21.4	30.1	27.1

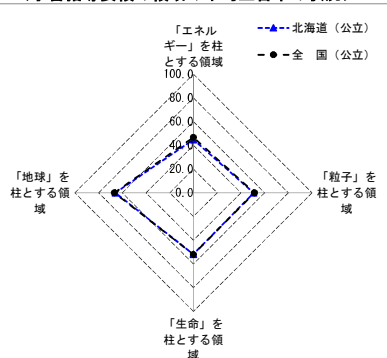
【問題別調査結果】小学校理科

集計結果

対象学校数	北海道(公立)	全国(公立)	対象児童数	北海道(公立)	全国(公立)
	917	18,150		34,220	936,576
分類		区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)	
		全体	17	北海道(公立)	全国(公立)
学習指導要領の区分・領域	A区分	「エネルギー」を柱とする領域	4	44.8	46.7
		「粒子」を柱とする領域	6	50.7	51.4
	B区分	「生命」を柱とする領域	4	51.9	52.0
		「地球」を柱とする領域	6	65.9	66.7
評価の観点	知識・技能		8	54.2	55.3
	思考・判断・表現		9	58.2	58.7
	主体的に学習に取り組む態度		0		
問題形式	選択式		11	53.8	54.7
	短答式		4	69.2	69.7
	記述式		2	44.3	45.2

※「学習指導要領の区分・領域」と「評価の観点」については、一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合がある。

<学習指導要領の領域の平均正答率の状況>



問題別集計結果

問題 番号	問題の概要	学習指導要領の区分・領域				評価の観点	問題形式	正答率 (%)		無解答率 (%)			
		A区分	B区分					北海道 (公立)	全 国 (公立)	北海道 (公立)	全 国 (公立)		
		「エネルギー」を柱とする領域	「粒子」を柱とする領域	「生命」を柱とする領域	「地球」を柱とする領域								
1(1)	赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込む時間の違いを調べる実験の条件について、コップAの土の量と水の量から、コップBの条件を書く				4B (3/7) (イ)※	○		○		79.9	79.5	2.2	2.5
1(2)	赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いをまとめたわけについて、結果を用いて書く				4B (3/7) (イ)※	○			○	59.5	60.5	8.2	8.5
1(3)	【結果】や【問題に対するまとめ】から、中くらいの粒の赤玉土に水がしみ込む時間を予想し、予想した理由とともに選ぶ				4B (3/7) (イ)※	○		○		76.5	77.8	0.8	0.9
2(1)	アルミニウム、鉄、銅について、電気を通すか、磁石に引き付けられるか、それぞれの性質に当てはまるものを選ぶ	3A (5/7) (イ)	3A (4/7) (ア)			○		○		9.4	10.6	0.5	0.6
2(2)	電気を通す物と通さない物でできた人形について、人形Aの剣を人形Bに当てたときだけ、ベルが鳴る回路を選ぶ	3A (5/7) (ア)※				○		○		42.1	42.9	0.5	0.6
2(3)	ベルをたたく装置の電磁石について、電流がつくる磁力を強めるため、コイルの巻数の変え方を書く	5A (3/7) (イ)				○		○		75.8	78.0	2.7	2.7
2(4)	乾電池2個のつなぎ方について、直列につなぎ、電磁石を強くできるものを選ぶ	4A (3/7) (ア)				○		○		52.0	55.1	0.6	0.8
3(1)	ヘチマの花のおしべとめしべについて選び、受粉について書く			5B (1/7) (エ)		○			○	68.5	70.7	1.4	1.5
3(2)	ヘチマの花粉を顕微鏡で観察するとき、適切な像にするための顕微鏡の操作を選ぶ			5B (1/7)		○		○		48.3	45.6	0.7	0.8
3(3)	ヘチマの種子が発芽する条件を調べる実験において、条件を制御した解決の方法を選ぶ			5B (1/7) (イ)※		○		○		61.7	62.0	1.6	1.7
3(4)	レタスの種子の発芽の結果から、てるみさんの気づきを基に、見いだした問題について書く			5B (1/7)		○			○	29.1	29.9	11.6	11.4
4(1)	水の温まり方について、問題に対するまとめをいうために、調べる必要があることについて書く		4A (2/7) (イ)※			○		○		52.7	50.6	6.2	6.1
4(2)イウ	水の蒸発について、温度によって水の状態が変化するという知識と関連付け、適切に説明しているものを選ぶ		4A (2/7) (ウ)	4B (4/7) (イ)		○		○		65.0	64.2	1.2	1.3
4(2)エオ	水の結露について、温度によって水の状態が変化するという知識と関連付け、適切に説明しているものを選ぶ		4A (2/7) (ウ)	4B (4/7) (イ)		○		○		55.2	57.5	1.4	1.5
4(3)力	海にある氷がとけることについて、水が氷に変わる温度を根拠に予想しているものを選ぶ		4A (2/7) (ウ)※			○		○		58.6	59.8	2.2	2.3
4(3)キ	水が陸から海へ流れていくことについて、水の行方と関連付けているものを選ぶ			4B (3/7) (ア)		○		○		59.1	60.9	2.3	2.4
4(3)ク	海面水位の上昇について、水の温度による体積の変化を根拠に予想しているものを選ぶ		4A (2/7) (ア)※			○		○		63.3	65.6	2.3	2.5

※太枠は、全国以上の平均正答率及び全国以下の無解答率

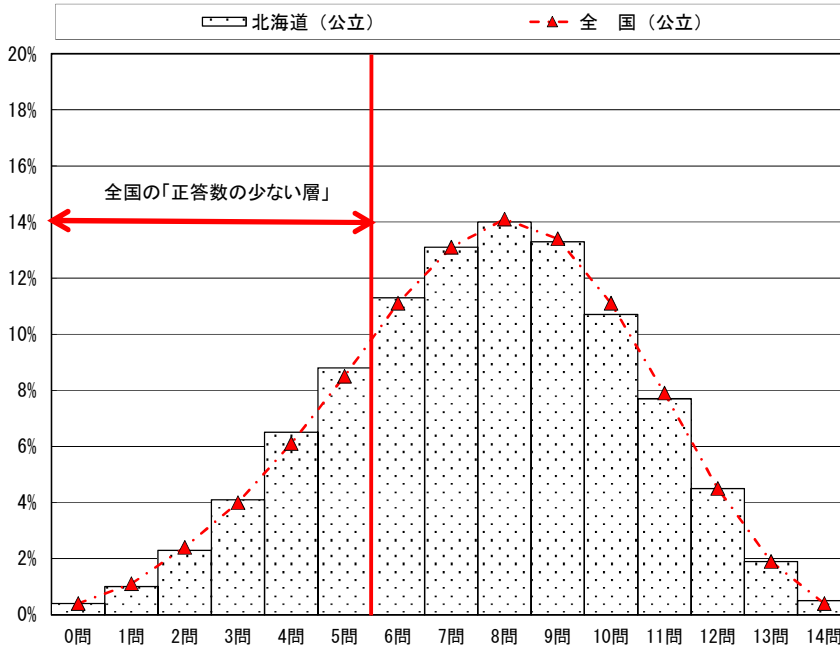
	H30	R4	R7
平均正答率が全国以上の問題数	2/16問	6/17問	4/17問
無解答率が全国以下の問題数	16/16問	10/17問	15/17問
無解答率が5%以上の問題数	1/16問	7/17問	3/17問

■ 中学校国語

○ 概要

- ・ 平均正答率は54[54.0]%
 - ・ 平均正答率の小数值での比較では、全国との差は、-0.3ポイント
- [参考]今年度対象となった生徒の小学校6学年時の結果
令和4年度小学校国語の全国平均正答率との差は、-1.2ポイント

	生徒数(人)	平均正答数(問)	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
北海道(公立)	33,467	7.6 / 14	54 [54.0]	8.0	2.7
全国(公立)	870,560	7.6 / 14	54 [54.3]	8.0	2.7



正答数 (生徒の割合(%))			
正答数 (正答率)	北海道	全国	
14 問 (100.0%)	0.5	0.4	A層
13 問 (92.9%)	1.9	1.9	
12 問 (85.7%)	4.5	4.5	
11 問 (78.6%)	7.7	7.9	
△ 10 問 (71.4%)	10.7	11.1	B層
9 問 (64.3%)	13.3	13.4	
◇ 8 問 (57.1%)	14.0	14.1	C層
7 問 (50.0%)	13.1	13.1	
▽ 6 問 (42.9%)	11.3	11.1	D層
5 問 (35.7%)	8.8	8.5	
4 問 (28.6%)	6.5	6.1	
3 問 (21.4%)	4.1	4.0	
2 問 (14.3%)	2.3	2.4	
1 問 (7.1%)	1.0	1.1	
0 問 (0.0%)	0.4	0.4	

(割合は小数第2位以下を四捨五入)

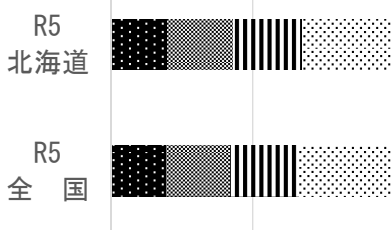
四分位		
	北海道	全国
第3四分位	△10.0問	10.0問
第2四分位	◇8.0問	8.0問
第1四分位	▽6.0問	6.0問

※ 生徒を正答数の大きい順に整列し、人数の割合により4つの層に分ける際の分け目、大きいものから順に「第3四分位」「第2四分位」「第1四分位」として示した。

■ は、全国の「第1四分位」未満の正答数の生徒の割合。

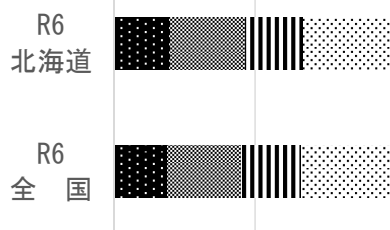
【正答数の層分布】

■ 0-7問 ■ 8-10問 ■ 11-12問 ■ 13-15問



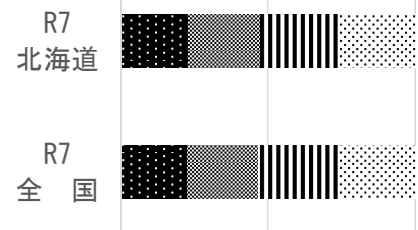
	D層 0-7問	C層 8-10問	B層 11-12問	A層 13-15問
R5北海道 (%)	19.8	23.6	24.1	32.6
R5全国 (%)	19.5	22.9	24.2	33.4

■ 0-5問 ■ 6-8問 ■ 9-10問 ■ 11-15問



	D層 0-5問	C層 6-8問	B層 9-10問	A層 11-15問
R6北海道 (%)	19.8	26.8	20.7	32.8
R6全国 (%)	18.9	26.4	21.2	33.5

■ 0-5問 ■ 6-7問 ■ 8-9問 ■ 10-14問



	D層 0-5問	C層 6-7問	B層 8-9問	A層 10-14問
R7北海道 (%)	23.1	24.4	27.3	25.3
R7全国 (%)	22.5	24.2	27.5	25.8

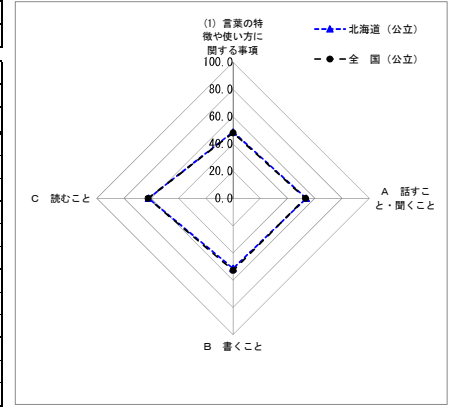
【問題別調査結果】 中学校国語

集計結果

対象学校数		北海道(公立)	全 国(公立)	対象生徒数	北海道(公立)	全 国(公立)
		561	9,244		33,467	870,560
分類		区分		対象問題数 (問)	平均正答率(%)	
					北海道(公立)	全 国(公立)
全体				14	54[54.0]	54.3
学習指導 要領の 内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項		2	48.8	48.1
		(2) 情報の扱い方に関する事項		0		
		(3) 我が国の言語文化に関する事項		0		
	思考力、 判断力、 表現力等	A 話すこと・聞くこと		4	53.8	53.2
		B 書くこと		5	51.4	52.8
		C 読むこと		3	62.0	62.3
		知識・技能		2	48.8	48.1
評価の観点	思考・判断・表現		12	54.8	55.3	
	主体的に学習に取り組む態度		0			
問題形式	選択式		8	64.0	63.9	
	短答式		2	72.9	73.6	
	記述式		4	24.3	25.3	

※「学習指導要領の内容」と「評価の観点」については、一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合がある。

＜学習指導要領の内容の平均正答率の状況＞



問題別集計結果

問題 番号	問題の概要	学習指導要領の内容						評価の観点			問題形式			正答率 (%)		無解答率 (%)	
		知識及び技能			思考力、 判断力、 表現力等												
		(1) 言葉 の特徴や使い 方に関する事 項	(2) 情報 の扱い方に関 する事項	(3) 我が国の言語 文化に関する 事項	A 話すこと・聞 くこと	B 書くこと	C 読むこと	知識・技能	思考・判断・ 表現	主体的に学習 に取り組む態 度	選択式	短 答 式	記 述 式	北海道 (公立)	全 国 (公立)	北海道 (公立)	全 国 (公立)
1一	変換した漢字として適切なものを選択する(かいしん)	2ウ					○			○			37.9	35.2	0.2	0.2	
1二	ちらしに「会場図」を加えた目的を説明したものとして適切なものを選択する					1ア		○		○			80.5	82.5	0.1	0.2	
1三	ちらしの中の情報について、示す位置を変えた意図を説明したものとして適切なものを選択する					1イ		○		○			62.7	63.3	0.6	0.5	
1四	ちらしの読み手に向けて、今年の美術展の工夫について伝える文章を書く					1ウ		○			○		29.9	31.0	1.7	1.6	
2一	スライドを使ってどのように話しているのかを説明したものとして適切なものを選択する					2ウ		○		○			41.2	38.1	0.3	0.3	
2二	聞き手の反応を見て発した言葉について、そのように発言した理由を説明したものとして適切なものを選択する					1ウ		○		○			77.4	77.9	0.3	0.3	
2三	「話の順序を入れ替えた方がよい」という助言の意図を説明したものとして適切なものを選択する					2イ		○		○			73.7	73.4	0.5	0.6	
2四	発表のまとめの内容をより分かりやすく伝えるためのスライドの工夫について、どのような助言をするか、自分の考えを書く					2ウ		○			○		22.7	23.2	4.9	4.0	
3一	物語の始めに問いかけが示されていることについて、その効果を説明したものとして適切なものを選択する					1エ		○		○			79.1	80.0	0.4	0.5	
3二	「兄」と「弟」が、物語の中でどのような性格の人物として描かれているかを書く					2ア		○			○		90.5	89.9	4.0	4.0	
3三	「しきりと」の意味として適切なものを選択する	1ウ						○		○			59.7	61.0	0.7	0.8	
3四	「一 榎木の実」に書かれている場面が、「二 釣の話」には書かれていないことによる効果について、自分の考えとそう考えた理由を書く					1エ		○			○		16.3	17.1	30.8	28.1	
4一	手紙の下書きを見直し、誤って書かれている漢字を見付けて修正する					1エ		○			○		55.4	57.3	35.2	33.5	
4二	手紙の下書きを見直し、修正した方がよい部分を見付けて修正し、修正した方がよいと考えた理由を書く					1エ		○			○		28.4	30.1	20.9	19.1	

※太枠は、全国以上の平均正答率及び全国以下の無解答率

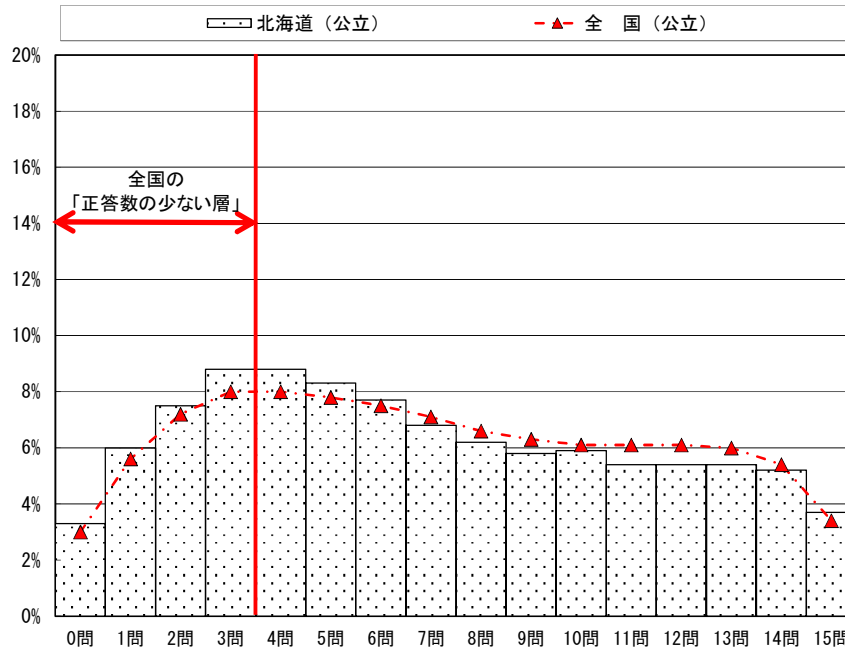
	R5	R6	R7
平均正答率が全国以上の問題数	7／15問	6／15問	4／14問
無解答率が全国以下の問題数	9／15問	8／15問	8／14問
無解答率が5%以上の問題数	5／15問	4／15問	3／14問

■ 中学校数学

○ 概要

- ・ 平均正答率は47[46.7]%
 - ・ 平均正答率の小数值での比較では、全国との差は、-1.6ポイント
- [参考]今年度対象となった生徒の小学校6学年時の結果
令和4年度小学校算数の全国平均正答率との差は、-2.1ポイント

	生徒数(人)	平均正答数(問)	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
北海道(公立)	33,474	7.0 / 15	47 [46.7]	6.0	4.3
全 国(公立)	871,097	7.2 / 15	48 [48.3]	7.0	4.2



正答数 (生徒の割合(%))		
正答数 (正答率)	北海道	全 国
15 問 (100.0%)	3.7	3.4
14 問 (93.3%)	5.2	5.4
13 問 (86.7%)	5.4	6.0
12 問 (80.0%)	5.4	6.1
11 問 (73.3%)	5.4	6.1
10 問 (66.7%)	5.9	6.1
9 問 (60.0%)	5.8	6.3
8 問 (53.3%)	6.2	6.6
7 問 (46.7%)	6.8	7.1
6 問 (40.0%)	7.7	7.5
5 問 (33.3%)	8.3	7.8
4 問 (26.7%)	8.8	8.0
3 問 (20.0%)	8.8	8.0
2 問 (13.3%)	7.5	7.2
1 問 (6.7%)	6.0	5.6
0 問 (0.0%)	3.3	3.0

(割合は小数第2位以下を四捨五入)

四分位		
	北海道	全 国
第3四分位	△11.0問	11.0問
第2四分位	◇6.0問	7.0問
第1四分位	▽3.0問	4.0問

※ 生徒を正答数の大きい順に整列し、人数の割合により4つの層に分ける際の分け目を、大きいものから順に「第3四分位」「第2四分位」「第1四分位」として示した。

■ は、全国の「第1四分位」未満の正答数の生徒の割合。

【正答数の層分布】

■ 0-3問 ■ 4-7問 ■ 8-10問 ◇ 11-15問					■ 0-4問 ■ 5-7問 ■ 8-11問 ◇ 12-16問					■ 0-3問 ■ 4-6問 ■ 7-10問 ◇ 11-15問				
R5 北海道					R6 北海道					R7 北海道				
R5 全 国					R6 全 国					R7 全 国				
D層	C層	B層	A層		D層	C層	B層	A層		D層	C層	B層	A層	
0-3問	4-7問	8-10問	11-15問		0-4問	5-7問	8-11問	12-16問		0-3問	4-6問	7-10問	11-15問	
R5北海道 (%)	19.5	32.3	22.9	25.4	R6北海道 (%)	21.7	25.0	28.1	25.3	R7北海道 (%)	25.6	24.8	24.7	25.1
R5全 国 (%)	17.5	31.1	24.0	27.4	R6全 国 (%)	20.3	23.2	29.3	27.3	R7全 国 (%)	23.8	23.3	26.1	27.0

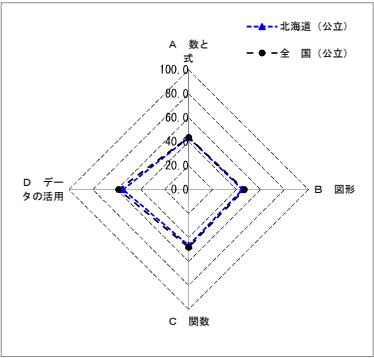
【問題別調査結果】 中学校数学

集計結果

対象学校数	北海道(公立)	全 国(公立)	対象生徒数	北海道(公立)	全 国(公立)
	561	9,243		33,474	871,097
分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
			北海道(公立)	全 国(公立)	
全体		15	47[46.7]	48.3	
学習指導要領の領域	A 数と式	5	43.4	43.5	
	B 図形	4	44.9	46.5	
	C 関数	3	46.6	48.2	
	D データの活用	3	54.8	58.6	
評価の観点	知識・技能	9	53.6	54.4	
	思考・判断・表現	6	36.4	39.1	
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	3	56.1	54.0	
	短答式	7	49.9	52.0	
	記述式	5	36.7	39.6	

※「学習指導要領の領域」と「評価の観点」については、一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合がある。

<学習指導要領の領域の平均正答率の状況>



問題別集計結果

問題 番号	問題の概要	学習指導要領の領域				評価の観点			問題形式			正答率 (%)		無解答率 (%)	
		A 数と式	B 図形	C 関数	D データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	北海道 (公立)	全国 (公立)	北海道 (公立)	全国 (公立)
1	1から9までの数のの中から素数を全て選ぶ	1(1) ア(ア)				○			○			40.5	31.8	0.5	0.7
2	果汁40%の飲み物amLに含まれる果汁の量を、aを用いた式で表す	1(2) ア(エ)				○				○		48.4	51.9	8.8	7.3
3	△ABCにおいて、∠Aの大きさが50° のときの頂点Aにおける外角の大きさを求める		2(1) ア(イ)			○				○		57.4	58.1	2.0	2.0
4	一次関数 $y=6x+5$ について、xの増加量が2のときのyの増加量を求める			2(1) ア(ア)		○				○		33.1	34.7	9.7	8.0
5	ある学級の生徒40人のハンドボール投げの記録をまとめた度数分布表から、20m以上25m未満の階級の相対度数を求める				1(1) ア(ア)	○				○		36.2	42.5	11.0	9.4
6(1)	連続する二つの3の倍数の和が9の倍数になるとは限らないことの説明を完成するために、予想が成り立たない例をあげ、その和を求める	2(1) ア(ウ) イ(イ)				○				○		62.9	62.8	5.4	4.6
6(2)	$3n$ と $3n+3$ の和を $2(3n+1)+1$ と表した式から、連続する二つの3の倍数の和がどんな数であるかを説明する	2(1) イ(イ)					○				○	25.1	25.7	27.8	24.9
6(3)	連続する三つの3の倍数の和が、9の倍数になることの説明を完成する	2(1) イ(イ)					○				○	40.0	45.2	24.0	20.2
7(1)	Aの手元のカードが3枚とも「グー」、Bの手元のカードが3枚とも「チョキ」でじゃんけんカードゲームの1回目を行うとき、1回目にAが勝つ確率を書く				2(2) ア(ア)	○				○		76.1	77.4	3.9	3.2
7(2)	Aの手元のカードが「グー」、「チョキ」、「パー」、「パー」の4枚、Bの手元のカードが「グー」、「チョキ」の2枚のとき、AとBの勝ちやすさについての正しい記述を選び、その理由を確率を用いて説明する				2(2) イ(イ)		○				○	52.1	55.9	3.1	2.2
8(1)	A駅からの走行距離と運賃の関係を表すグラフの何を読み取ればC駅とD駅の間の走行距離が分かるかを選ぶ			1(1) ア(ウ)		○			○			70.5	71.9	2.4	2.3
8(2)	A駅から60.0km地点につくられる新しい駅の運賃がおおよ何円になるかを求める方法を説明する			1(1) イ(イ)			○				○	36.1	38.0	37.8	35.0
9(1)	四角形AECFが平行四辺形であることの証明を振り返り、新たに分かることを選ぶ			2(2) ア(イ)		○			○			57.1	58.5	1.2	1.1
9(2)	平行四辺形ABCDの辺CB、ADを延長した直線上に $BE=DF$ となる点E、Fを取っても、四角形AECFは平行四辺形となることの証明を完成する			2(2) イ(ア)			○			○		35.1	36.3	8.8	7.2
9(3)	平行四辺形ABCDの辺BC、DAを延長した直線上に $BE=DF$ となる点E、Fを取り、辺ABと線分FCの交点をG、辺DCと線分AEの交点をHとしたとき、四角形AGCHが平行四辺形になることを証明する			2(2) イ(イ)			○				○	30.1	33.2	34.8	31.5

※太枠は、全国以上の平均正答率及び全国以下の無解答率

	R5	R6	R7
平均正答率が全国以上の問題数	2／15問	1／16問	2／15問
無解答率が全国以下の問題数	4／15問	4／16問	2／15問
無解答率が5%以上の問題数	9／15問	8／16問	9／15問

■ 中学校理科

- 概要
- ・ 平均IRTスコアは505
 - ・ 平均IRTスコアの比較では、全国との差は+2であり、全国を上回っている
- 【参考】今年度対象となった生徒の小学校6学年時の結果
令和4年度小学校理科の全国平均正答率との差は、-0.4ポイント

※IRTスコア:IRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すもの

【平均正答数集計値(公開問題)】

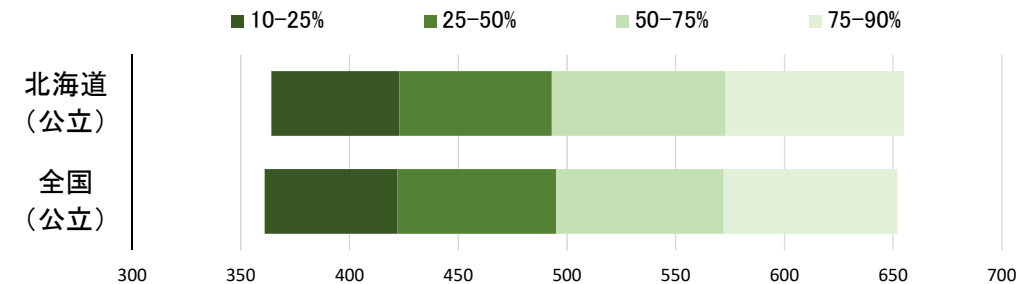
	全日程に共通する問題	実施日別の問題				
	【1】	【2】、【9】	【5】、【8】	【3】、【6】	【4】、【7】	
北海道(公立)	3.0 / 6	2.0 / 4	1.9 / 4	2.2 / 4	2.3 / 4	
全 国(公立)	2.9 / 6	2.0 / 4	1.9 / 4	2.3 / 4	2.3 / 4	

【IRTスコア集計値】

	平均IRTスコア	標準偏差	パーセンタイル値				
			10%	25%	50%	75%	90%
北海道(公立)	505	126.5	364	423	493	573	655
全 国(公立)	503	124.0	361	422	495	572	652

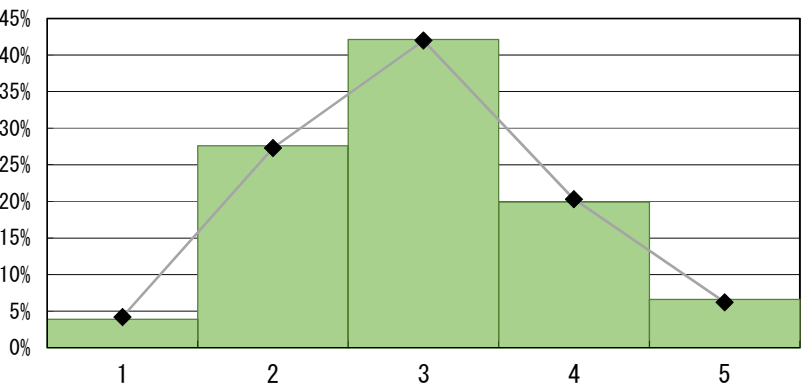
※パーセンタイル:データ全体を小さい順に並べたときに、ある値が下から数えて何%の位置に相当するかを表す数値

【IRTスコア分布グラフ(パーセンタイル値:10%、25%、50%、75%、90%)】



【IRTバンド分布グラフ(横軸:IRTバンド 縦軸:割合)】

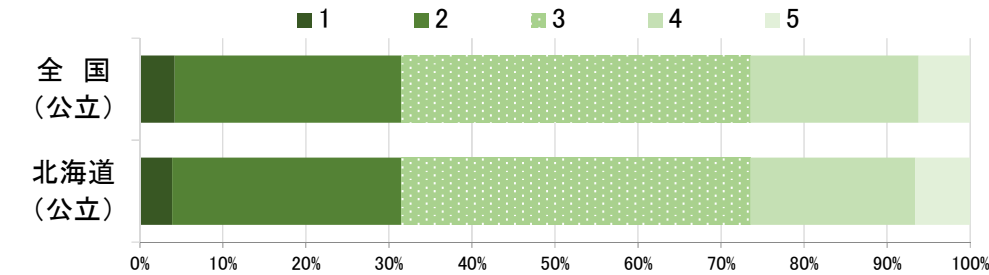
※IRTバンド:IRTスコアを1～5の5段階に区切ったもので、3が平均バンド、5が最も高いバンドとなる



【IRTバンド集計値】

IRTバンド	割合(%)	
	北海道(公立)	全国(公立)
5	6.6	6.2
4	19.9	20.3
3	42.1	42.0
2	27.6	27.3
1	3.9	4.2

【IRTバンド分布比較】



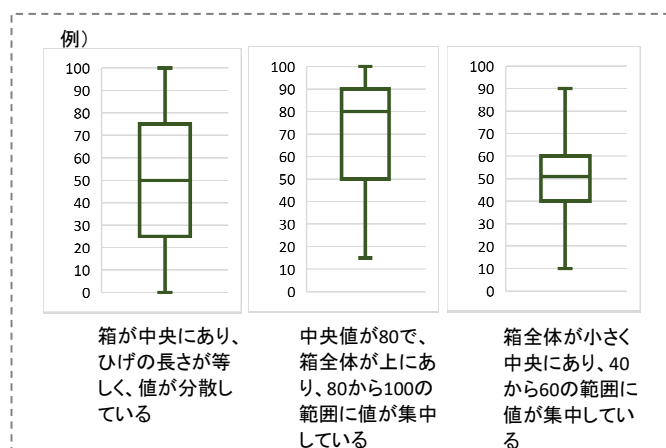
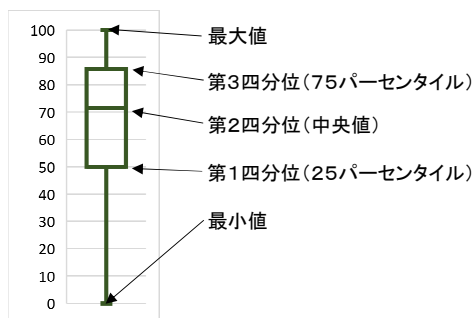
【公開問題別調査結果】 中学校理科
問題別集計結果(公開問題)

問題番号	問題の概要	学習指導要領の領域			評価の観点			問題形式			正答率(%)		無解答率(%)		問題の難易度	対象生徒数	
		「エネ」領域とする	「粒子」を柱とする領域	「生命」を柱とする領域	「地球」を柱とする領域	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	北海道(公立)	全国(公立)	北海道(公立)	全国(公立)	北海道(公立)	全国(公立)
全日程に共通する問題	1(1)	電熱線を利用して水を温めるための電気回路について、直列と並列とで回路全体の抵抗が大きい装置や速く水が温まる装置を選択する	(3)(7)㉔			○			○			52.1	51.9	0.2	0.2	5	33,370 864,634
	1(2)	「理科の実験では、なぜ水道水ではなく精製水を使うのかな?」という疑問を解決するための課題を記述する	(2)(7)㉔				○			○		52.0	46.2	6.8	8.0	5	33,370 864,634
	1(3)	地層1から地層4までの性質から、水が染み出る場所を判断し、その場所を選択する			(2)(7)㉔		○		○			36.0	36.2	0.5	0.6	5	33,370 864,634
	1(4)	生物1から生物4までの動画を見て、呼吸を行う生物をすべて選択する		(3)(9)㉔		○			○			29.5	29.7	0.1	0.2	5	33,370 864,634
	1(5)	塩素の元素記号を記述する	(4)(7)㉔			○				○		46.4	44.9	7.9	8.5	4	33,370 864,634
	1(6)	水道水と精製水に関する2人の発表を見て、探究の過程におけるあなたの振り返りを記述する	(2)(7)㉔				○			○		79.3	79.4	10.3	9.9	3	33,370 864,634
実施日別の問題	2(1)	【考察】をより確かなものにするために必要な実験を選択し、予想される実験の結果を記述する	(1)(7)㉔				○			○		15.3	14.0	2.1	1.9	5	7,374 203,127
	2(2)	「Webページの情報だけを信用して考察してよいか」について判断し、その理由として適切なものをすべて選択する	(1)(7)㉔			○			○			94.9	94.6	0.2	0.1	2	7,374 203,127
	3(1)	設定した【仮説】が正しい場合の実験結果の予想を選択する	(3)(7)㉔				○		○			32.9	34.9	0.2	0.2	5	9,071 220,884
	3(2)	抵抗に関する知識を手掛かりに、身近な電気回路に抵抗がついている理由を選択する	(3)(7)㉔			○			○			85.7	85.2	0.1	0.1	2	9,071 220,884
	4(1)	プロパンガスと都市ガスでシャボン玉を作ったときの様子から、プロパンガス、都市ガス、空気、水の密度の大小を判断し、小さい順に並べる	(2)(7)㉔				○		○			52.8	50.4	0.1	0.1	4	8,557 220,314
	4(2)	「一酸化炭素は空気より軽い」という性質を基に、適切な避難行動を選択する	(2)(7)㉔			○			○			93.6	92.8	0.1	0.1	2	8,557 220,314
	5(1)	加熱を伴う実験において、火傷をしたときの適切な応急処置を選択する	(2)(7)㉔			○			○			94.1	93.0	0.1	0.1	1	8,368 220,309
	5(2)	実験の動画と実験結果の図から、どのような化学変化が起きているか判断し、原子や分子のモデルを移動させることで、その化学変化をモデルで表す	(4)(1)㉔				○			○		35.0	35.6	4.6	4.6	4	8,368 220,309
	6(1)	牧野富太郎の「ノジグク」のスケッチから分かるスケッチの技能について、適切なものを選択する		(1)(7)㉔		○			○			65.0	65.9	0.2	0.2	4	9,071 220,884
	6(2)	牧野富太郎の「サクユリ」のスケッチから、サクユリの【茎の横断面】、【根】として適切なものを判断し、選択する		(3)(1)㉔			○		○			39.5	41.9	0.1	0.1	4	9,071 220,884
	7(1)	小腸の柔毛、肺の肺胞、根毛に共通する構造と同一構造をもつものとして適切な事象を判断し、選択する		(3)(9)㉔		○			○			34.1	34.8	0.2	0.2	5	8,557 220,314
	7(2)	消化によってデンプンがブドウ糖に分解されることと、同じ化学変化であるものを選択する	(4)(7)㉔	(3)(9)㉔		○			○			53.2	51.6	0.2	0.2	5	8,557 220,314
	8(1)	大地の変化に関する言い伝えを1つ選択し、その選択した言い伝えが科学的に正しいと判断するための理由を「地層を調べたときに何が分ればよいか」に着目して記述する		(2)(1)㉔			○			○		39.0	42.2	3.1	3.2	4	8,368 220,309
	8(2)	Aさんの考えを肯定するためにはボーリング地点③の結果がどのようになればよいかを判断し、青色の地層を移動させ、ボーリング地点③の結果をモデルで示す		(2)(1)㉔			○			○		18.6	18.1	0.9	1.1	5	8,368 220,309
	9(1)	【予想】から学習した内容が反映されたAさんの【振り返り】を読み、Aさんの【予想】を判断し、選択する		(4)(7)㉔		○			○			32.0	31.8	0.3	0.3	5	7,374 203,127
	9(2)	クリーンルームのほかに気圧を利用している身近な事象を選択する		(4)(7)㉔		○			○			57.1	58.1	0.2	0.3	4	7,374 203,127

※ 太枠は、全国以上の正答率及び全国以下の無解答率

■各教科の正答率・IRTスコアの分布

複数のデータの分布を比較がしやすい統計的な表し方として、各教科の正答率・IRTスコアの分布を「箱ひげ図」で掲載【箱ひげ図の見方】



【北海道(公立)の正答率・IRTスコアの分布】

	小学校			中学校		
	国語	算数	理科	国語	数学	理科
平均正答率・平均IRTスコア	65.4	55.2	56.3	54.0	46.7	505
第3四分位	78.6	75.0	76.5	71.4	73.3	573
第2四分位	71.4	56.3	58.8	57.1	40.0	493
第1四分位	50.0	37.5	41.2	42.9	20.0	423

【全国(公立)の正答率・IRTスコアの分布】

	小学校			中学校		
	国語	算数	理科	国語	数学	理科
平均正答率・平均IRTスコア	66.8	58.0	57.1	54.3	48.3	503
第3四分位	85.7	81.3	76.5	71.4	73.3	572
第2四分位	71.4	62.5	58.8	57.1	46.7	495
第1四分位	50.0	37.5	41.2	42.9	26.7	422

4.質問調査〔生活習慣や学習環境等に関する項目〕

■検証改善サイクルの確立

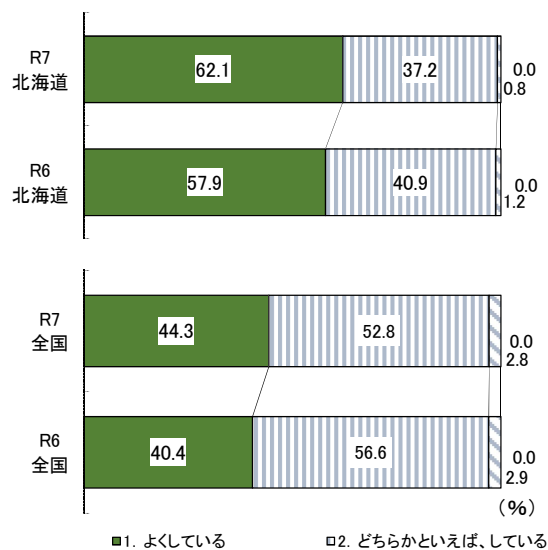
【学校】

①「児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか」

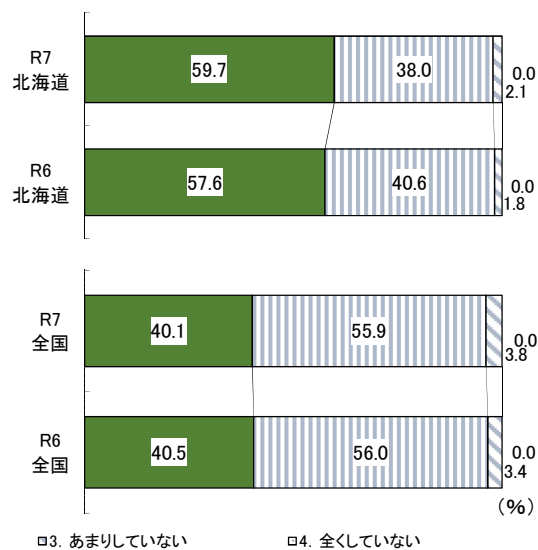
(学校 質問番号 小15、中15)

「1. よくしている」と回答している学校の割合は、令和6年度と比べて、小学校で4.2ポイント高く、中学校で2.1ポイント高い。全国と比べて、小学校で17.8ポイント高く、中学校で19.6ポイント高い。

〈小学校〉



〈中学校〉

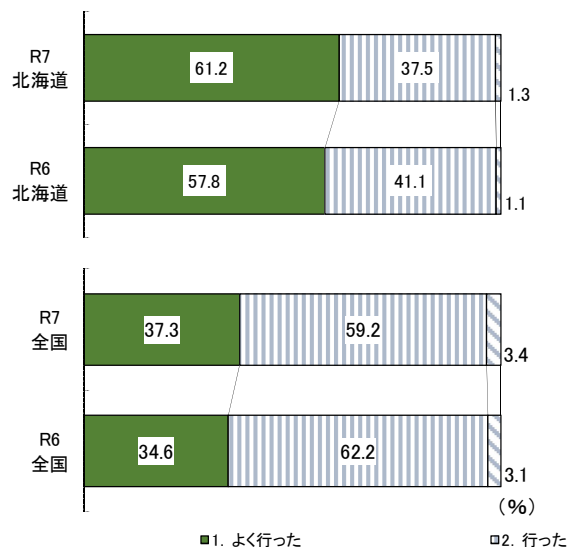


②「前年度の全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか」

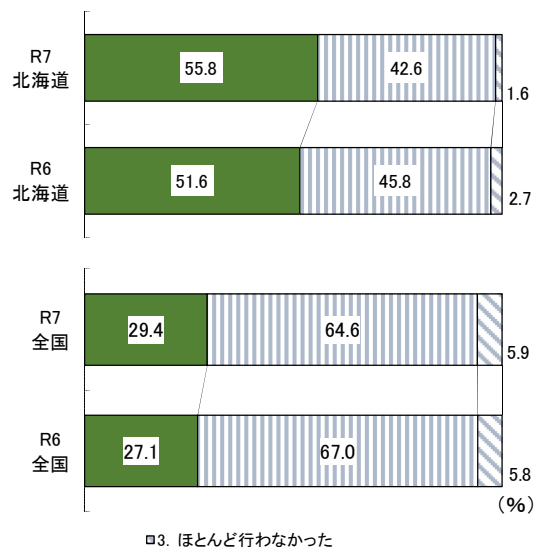
(学校 質問番号 小83、中83)

「1. よく行った」と回答している学校の割合は、令和6年度と比べて、小学校で3.4ポイント高く、中学校で4.2ポイント高い。全国と比べて、小学校で23.9ポイント高く、中学校で26.4ポイント高い。

〈小学校〉



〈中学校〉



■授業改善

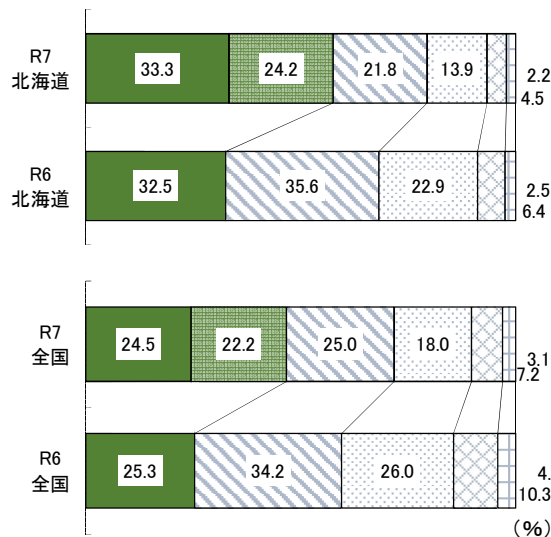
【児童生徒】

③「前年度までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」

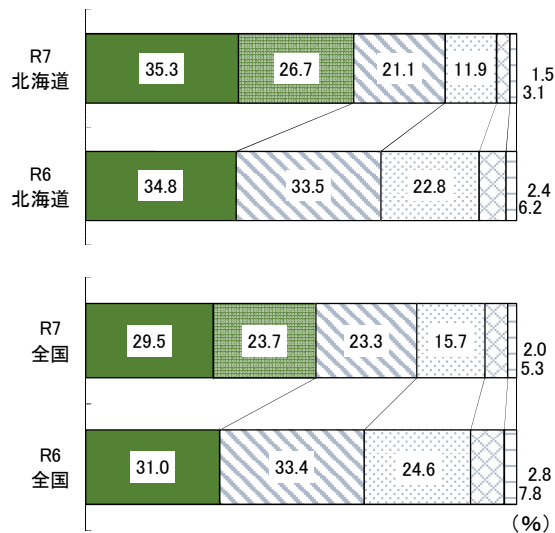
(児童生徒 質問番号 小28、中28)

「1. ほぼ毎日(1日に複数の授業で活用)」、「2. ほぼ毎日(1日に1回くらいの授業)」と回答している児童生徒の割合は、令和6年度と比べて、小学校で25.0ポイント高く、中学校で27.2ポイント高い。全国と比べて、小学校で10.8ポイント高く、中学校で8.8ポイント高い。

〈小学校〉



〈中学校〉



R7選択肢 ■1. ほぼ毎日(1日に複数の授業で活用) □2. ほぼ毎日(1日に1回くらいの授業) □3. 週3回以上 □4. 週1回以上 □5. 月1回以上 □6. 月1回未満

R6選択肢 ■1. ほぼ毎日

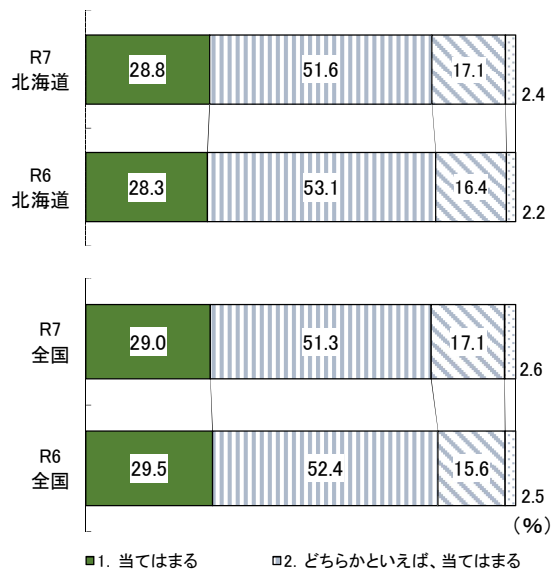
□2. 週3回以上 □3. 週1回以上 □4. 月1回以上 □5. 月1回未満

④「前年度までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」

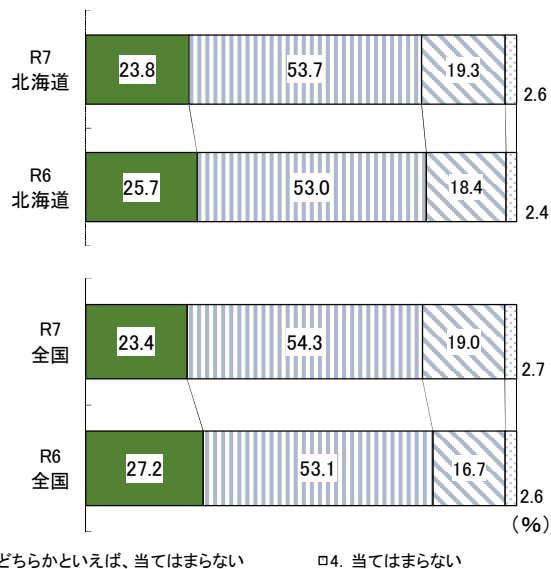
(児童生徒 質問番号 小32、中32)

「1. 当てはまる」と回答している児童生徒の割合は、令和6年度と比べて、小学校で0.5ポイント高く、中学校で1.9ポイント低い。全国と比べて、小学校で0.2ポイント低く、中学校で0.4ポイント高い。

〈小学校〉



〈中学校〉



■1. 当てはまる

□2. どちらかといえば、当てはまる

□3. どちらかといえば、当てはまらない

□4. 当てはまらない

■授業改善

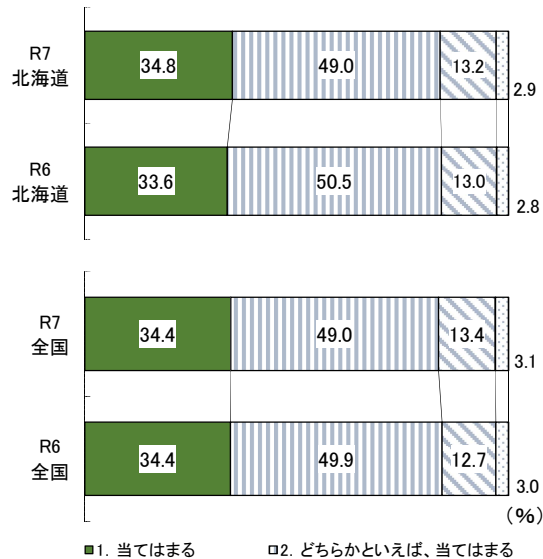
【児童生徒】

⑤「前年度までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか」

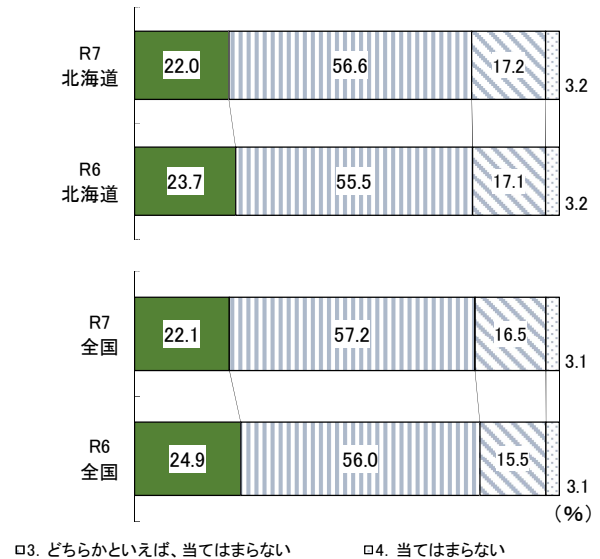
(児童生徒 質問番号 小34、中34)

「1. 当てはまる」と回答している児童生徒の割合は、令和6年度と比べて、小学校で1.2ポイント高く、中学校で1.7ポイント低い。全国と比べて、小学校で0.4ポイント高く、中学校で0.1ポイント低い。

〈小学校〉



〈中学校〉



■ 1. 当てはまる

■ 2. どちらかといえば、当てはまる

■ 3. どちらかといえば、当てはまらない

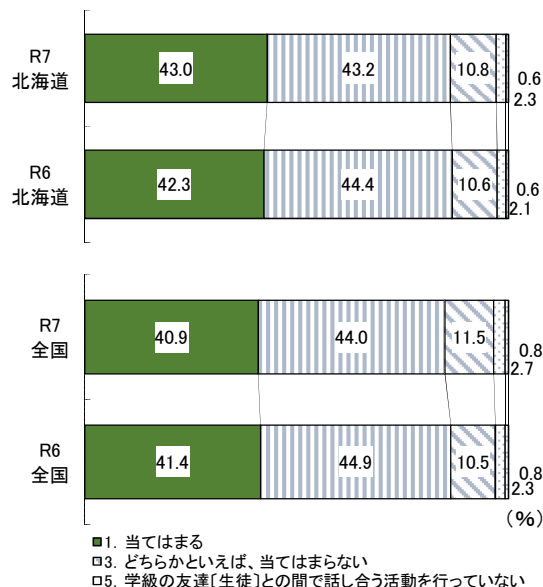
■ 4. 当てはまらない

⑥「学級の友達[生徒]との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」

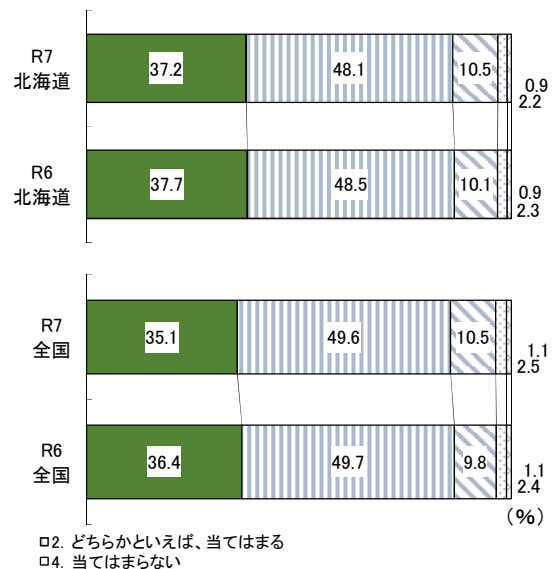
(児童生徒 質問番号 小35、中35)

「1. 当てはまる」と回答している児童生徒の割合は、令和6年度と比べて、小学校で0.7ポイント高く、中学校で0.5ポイント低い。全国と比べて、小学校で2.1ポイント高く、中学校で2.1ポイント高い。

〈小学校〉



〈中学校〉



■ 1. 当てはまる

■ 2. どちらかといえば、当てはまる

■ 3. どちらかといえば、当てはまらない

■ 4. 当てはまらない

■ 5. 学級の友達[生徒]との間で話し合う活動を行っていない

■ 2. どちらかといえば、当てはまる

■ 4. 当てはまらない

■授業改善

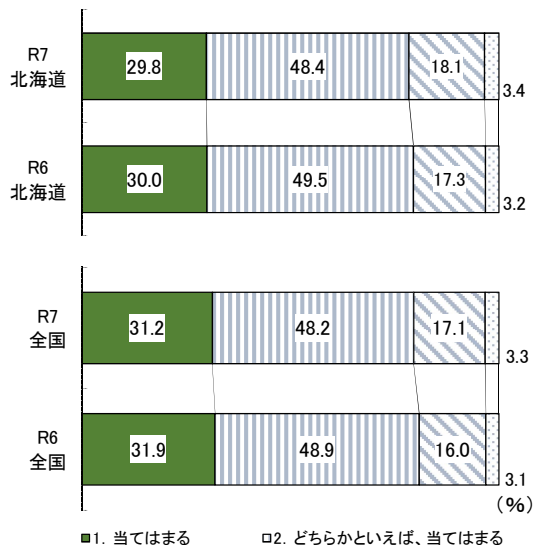
【児童生徒】

⑦「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができますか」

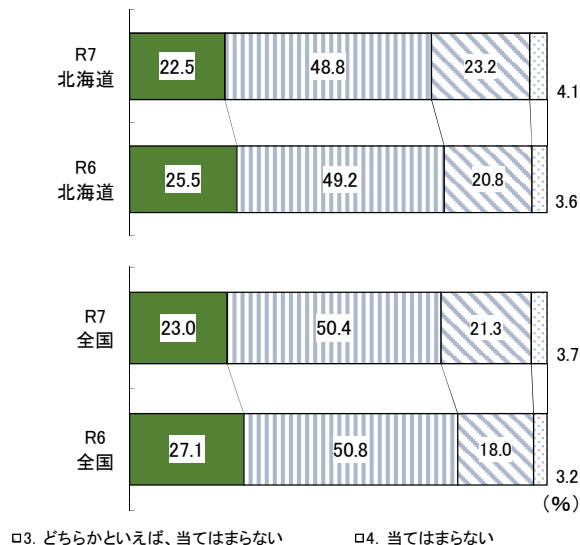
(児童生徒 質問番号 小36、中36)

「1. 当てはまる」と回答している児童生徒の割合は、令和6年度と比べて、小学校で0.2ポイント低く、中学校で3.0ポイント低い。全国と比べて、小学校で1.4ポイント低く、中学校で0.5ポイント低い。

〈小学校〉



〈中学校〉

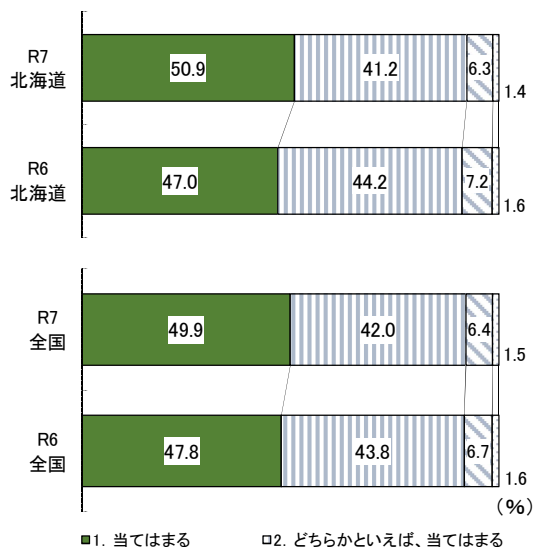


⑧「授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか」

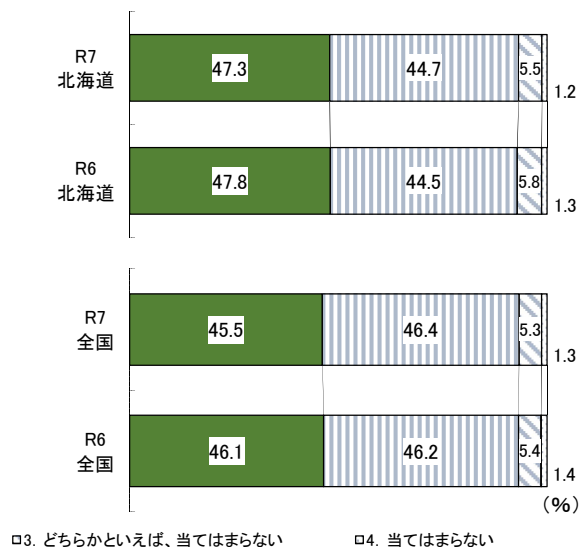
(児童生徒 質問番号 小39、中39)

「1. 当てはまる」と回答している児童生徒の割合は、令和6年度と比べて、小学校で3.9ポイント高く、中学校で0.5ポイント低い。全国と比べて、小学校で1.0ポイント高く、中学校で1.8ポイント高い。

〈小学校〉



〈中学校〉



■授業改善

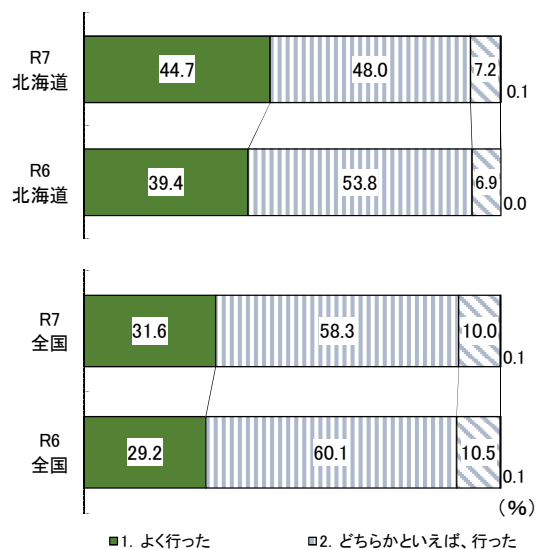
【学校】

⑨「調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、授業において、児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか」

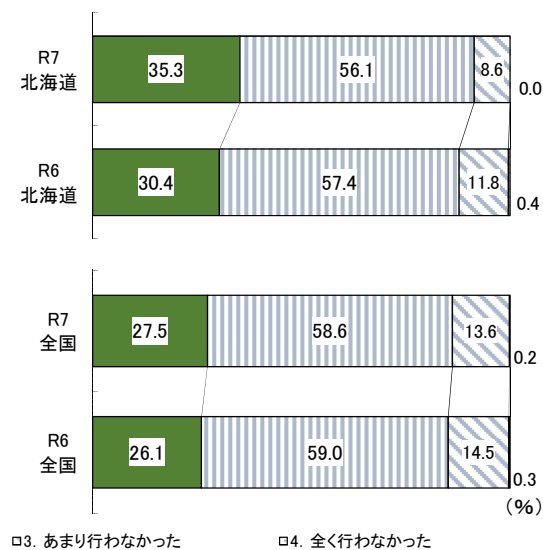
(学校 質問番号 小32、中32)

「1. よく行った」と回答している学校の割合は、令和6年度と比べて、小学校で5.3ポイント高く、中学校で4.9ポイント高い。全国と比べて、小学校で13.1ポイント高く、中学校で7.8ポイント高い。

〈小学校〉



〈中学校〉

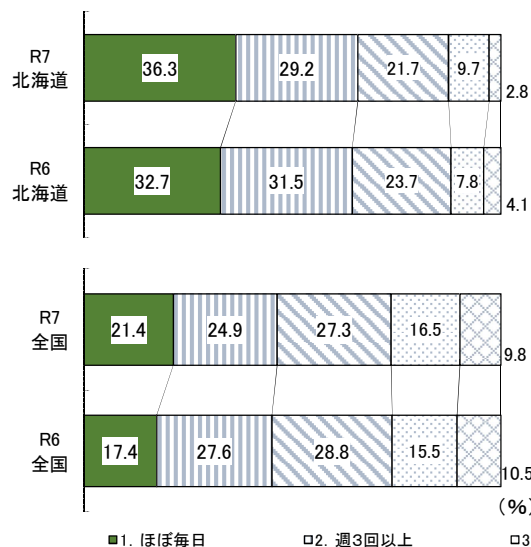


⑩「調査対象学年の児童生徒同士がやりとりする場面では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか」

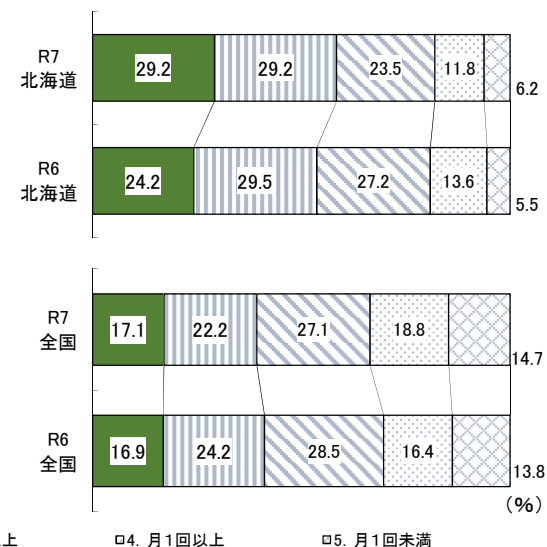
(学校 質問番号 小62、中62)

「1. ほぼ毎日」と回答している学校の割合は、令和6年度と比べて、小学校で3.6ポイント高く、中学校で5.0ポイント高い。全国と比べて、小学校で14.9ポイント高く、中学校で12.1ポイント高い。

〈小学校〉



〈中学校〉



■小中連携の推進

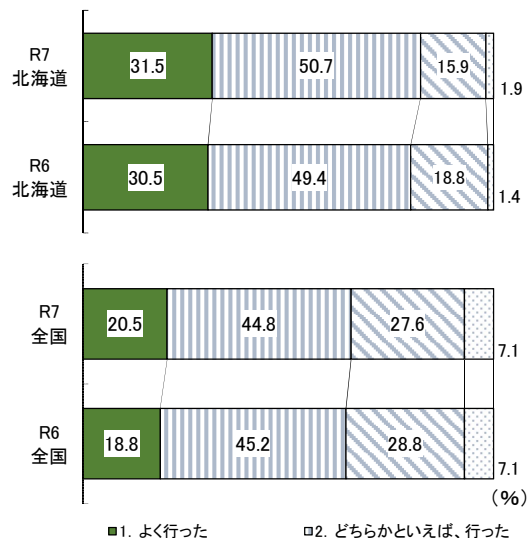
【学校】

⑪「前年度までに、近隣等の中学校〔中：小学校〕と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組をどの程度行いましたか」

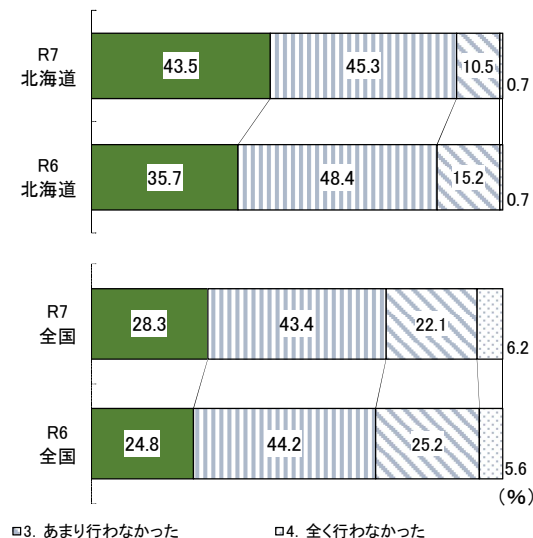
（学校 質問番号 小72、中72）

「1. よく行った」と回答している学校の割合は、令和6年度と比べて、小学校で1.0ポイント高く、中学校で7.8ポイント高い。全国と比べて、小学校で11.0ポイント高く、中学校で15.2ポイント高い。

〈小学校〉



〈中学校〉



■望ましい学習習慣の確立

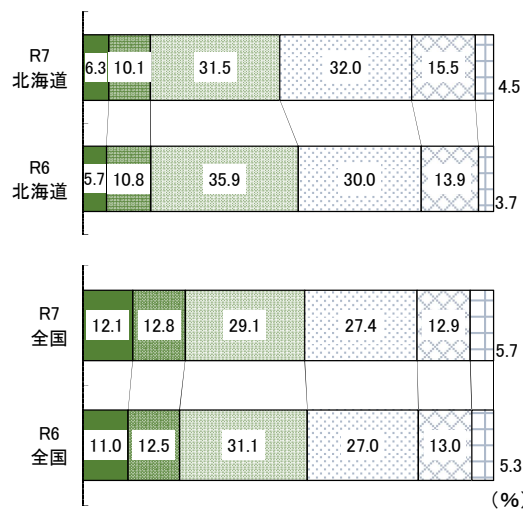
【児童生徒】

⑫「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）」

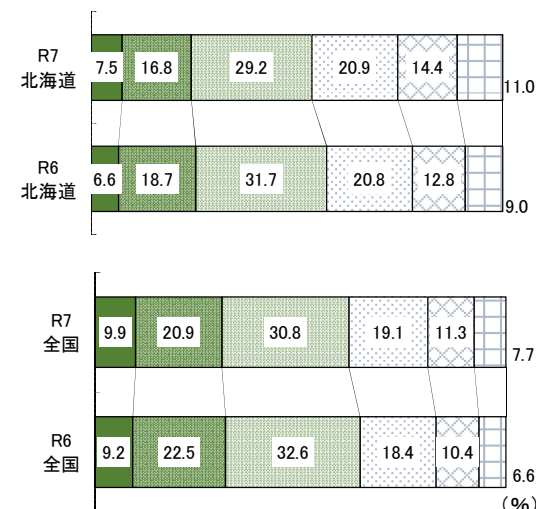
（児童生徒 質問番号 小17、中17）

「1. 3時間以上」、「2. 2時間以上、3時間より少ない」、「3. 1時間以上、2時間より少ない」と回答している児童生徒の割合は、令和6年度と比べて、小学校で4.5ポイント低く、中学校で3.5ポイント低い。全国と比べて、小学校で6.1ポイント低く、中学校で8.1ポイント低い。

〈小学校〉



〈中学校〉



■ 1. 3時間以上 2. 2時間以上、3時間より少ない 3. 1時間以上、2時間より少ない 4. 30分以上、1時間より少ない 5. 30分より少ない 6. 全くしない

■望ましい学習習慣の確立

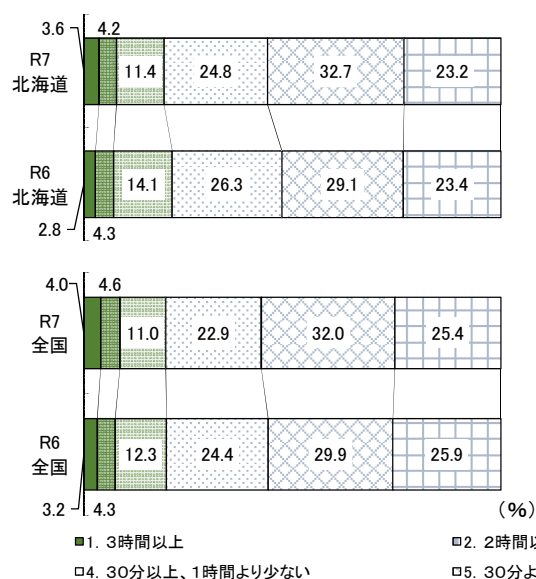
【児童生徒】

⑬「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか（遊びなどの目的に使う時間は除く）」

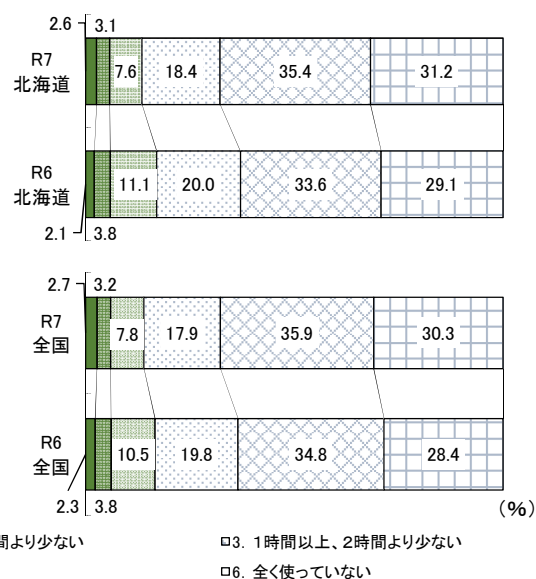
（児童生徒 質問番号 小18、中18）

「1. 3時間以上」、「2. 2時間以上、3時間より少ない」、「3. 1時間以上、2時間より少ない」と回答している児童生徒の割合は、令和6年度と比べて、小学校で2.0ポイント低く、中学校で3.7ポイント低い。全国と比べて、小学校で0.4ポイント低く、中学校で0.4ポイント低い。

〈小学校〉



〈中学校〉



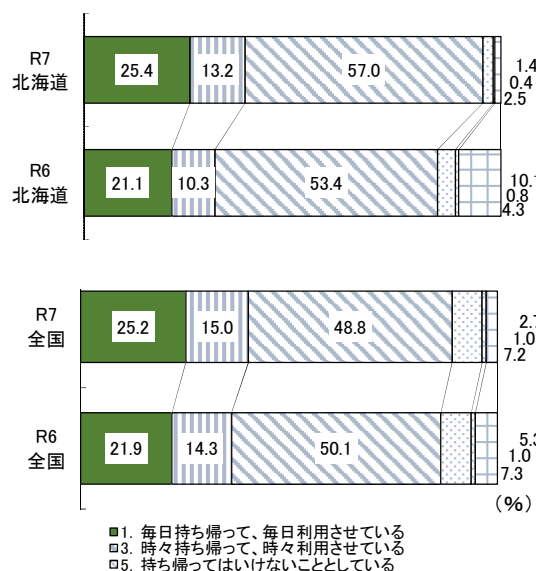
【学校】

⑭「児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を、どの程度家庭で利用できるようにしていますか」

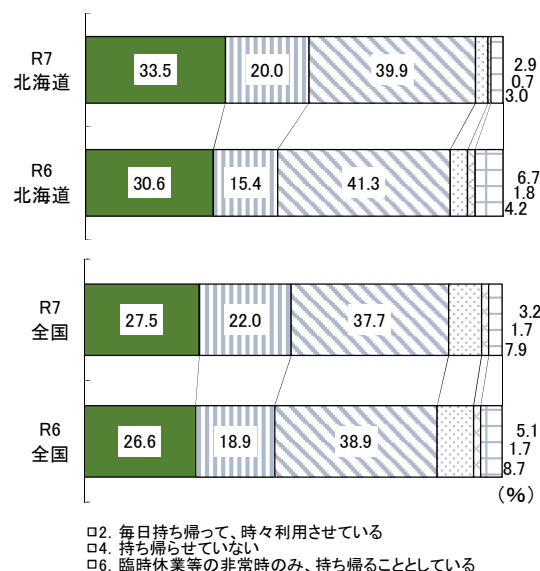
（学校 質問番号 小66、中66）

「1. 毎日持ち帰って、毎日利用させている」と回答している学校の割合は、令和6年度と比べて、小学校で4.3ポイント高く、中学校で2.9ポイント高い。全国と比べて、小学校で0.2ポイント高く、中学校で6.0ポイント高い。

〈小学校〉



〈中学校〉



■望ましい学習習慣の確立

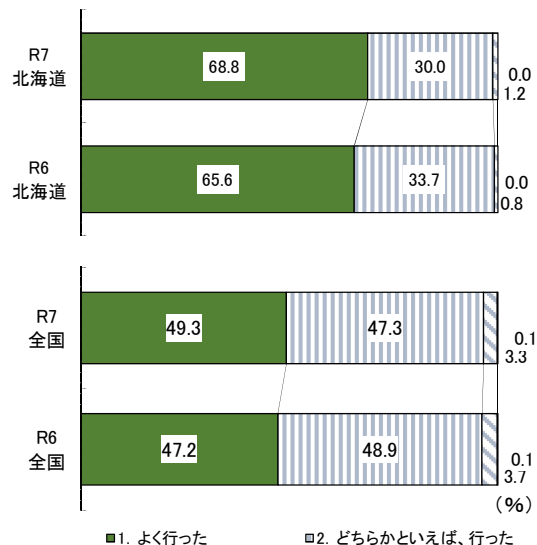
【学校】

⑮「調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、学校では、児童生徒に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えましたか」

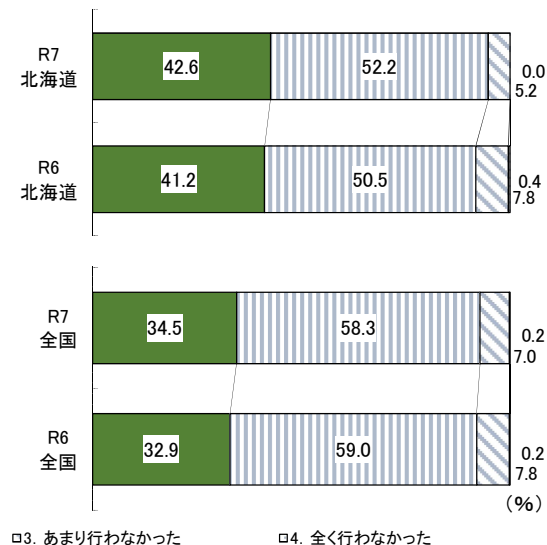
(学校 質問番号 小80、中80)

「1. よく行った」と回答している学校の割合は、令和6年度と比べて、小学校で3.2ポイント高く、中学校で1.4ポイント高い。全国と比べて、小学校で19.5ポイント高く、中学校で8.1ポイント高い。

〈小学校〉



〈中学校〉

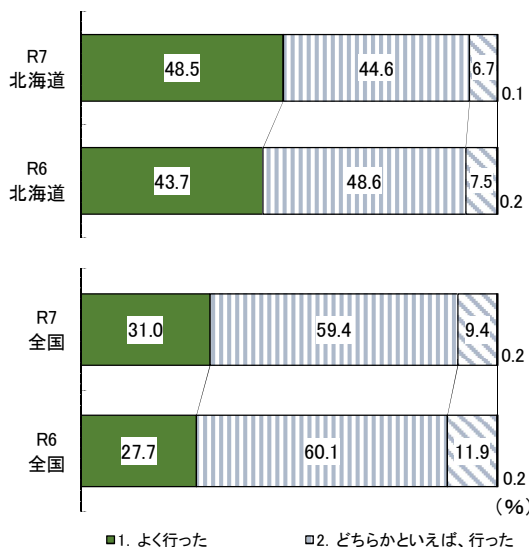


⑯「調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、学校では、児童生徒が行った家庭学習の課題について、その後の教員の指導改善や児童生徒の学習改善に生かしましたか」

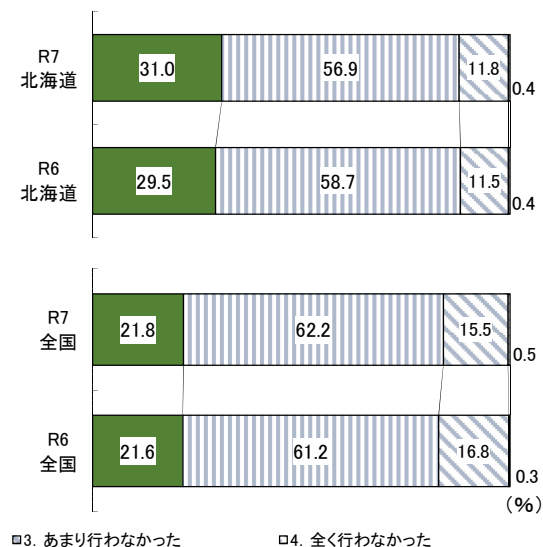
(学校 質問番号 小82、中82)

「1. よく行った」と回答している学校の割合は、令和6年度と比べて、小学校で4.8ポイント高く、中学校で1.5ポイント高い。全国と比べて、小学校で17.5ポイント高く、中学校で9.2ポイント高い。

〈小学校〉



〈中学校〉



5. 質問調査〔ウェルビーイングの向上に関する項目〕

挑戦心・自己有用感・幸福感等の状況について、児童生徒質問調査の結果及びそのグラフを掲載

質 問 項 目	校 種	北海道の結果(%)		全国比	
		R7	R6	R7	R6
① 自分には、よいところがあると回答した児童生徒の割合(小5、中5)	小	44.7	40.7	-2.6	-2.7
	中	41.3	41.5	+0.6	+1.1
② 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると回答した児童生徒の割合(小6、中6)	小	56.3	47.0	+1.0	-1.8
	中	48.3	46.2	+1.7	+2.0
③ 将来の夢や目標を持っていると回答した児童生徒の割合(小7、中7)	小	60.7	59.8	±0.0	-0.8
	中	36.2	36.5	+0.7	+0.4
④ 人が困っているときは、進んで助けていると回答した児童生徒の割合(小8、中8)	小	49.4	45.2	+0.2	-0.8
	中	37.3	36.7	-0.6	-1.6
⑤ 困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できると回答した児童生徒の割合(小10、中10)	小	31.8	28.5	-1.3	-1.7
	中	30.8	27.0	-1.1	-1.7
⑥ 学校に行くのは楽しいと回答した児童生徒の割合(小12、中12)	小	45.0	42.9	-4.9	-4.3
	中	40.9	40.5	-4.7	-3.0
⑦ 自分と違う意見について考えるのは楽しいと回答した児童生徒の割合(小13、中13)	小	31.7	28.8	-0.9	-1.5
	中	30.5	29.1	-0.9	-1.2
⑧ 友達関係に満足していると回答した児童生徒の割合(小14、中14)	小	61.1	59.7	-3.1	-2.7
	中	56.3	56.3	-0.1	+1.3
⑨ 普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがよくあると回答した児童生徒の割合(小15、中15)	小	53.7	49.5	-0.8	-1.3
	中	45.4	44.1	-1.0	-0.5
⑩ 地域や社会をよくするために何かしてみたいと回答した児童生徒の割合(小27、中27)	小	34.5	37.0	+0.7	+0.2
	中	21.1	25.0	-1.3	-1.4
⑪ 学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると回答した児童生徒の割合(小41、中41)	小	36.8	35.3	+0.3	-1.0
	中	34.2	36.7	+1.6	+1.2
⑫ 国語の勉強は好きだと回答した児童生徒の割合(小45、中45)	小	25.4	24.6	+1.3	+0.5
	中	25.1	28.3	+3.5	+3.9
⑬ 国語の授業の内容はよく分かると回答した児童生徒の割合(小46、中46)	小	36.1	37.3	+0.2	-1.9
	中	29.0	36.1	+3.6	+4.1
⑭ 算数・数学の勉強は好きだと回答した児童生徒の割合(小53、中53)	小	32.5	31.7	-1.2	-2.3
	中	26.1	26.5	-0.4	-2.9
⑮ 算数・数学の授業の内容はよく分かると回答した児童生徒の割合(小54、中54)	小	38.2	40.0	-3.5	-4.9
	中	29.1	33.4	-1.0	-1.7
⑯ 理科の勉強は好きだと回答した児童生徒の割合(小61、中61)	小	56.9	58.1	+5.2	+5.0
	中	30.4	30.6	+0.4	-2.7
⑰ 理科の授業の内容はよく分かると回答した児童生徒の割合(小62、中62)	小	57.0	58.9	+4.6	+4.0
	中	25.7	30.3	-0.4	-0.6

※(校種番号)は質問番号

※北海道の結果は最も肯定的に回答した割合

※⑰の前回数値はR4の数値

■ウェルビーイングの向上

【ウェルビーイングとは】

- 身体的・精神的・社会的に良い状態にあることをいい、短期的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義などの将来にわたる持続的な幸福を含む概念
- 多様な個人がそれぞれ幸せや生きがいを感じるとともに、個人を取り巻く場や地域、社会が幸せや豊かさを感じられる良い状態にあることも含む概念

【日本社会に根ざしたウェルビーイングの向上】

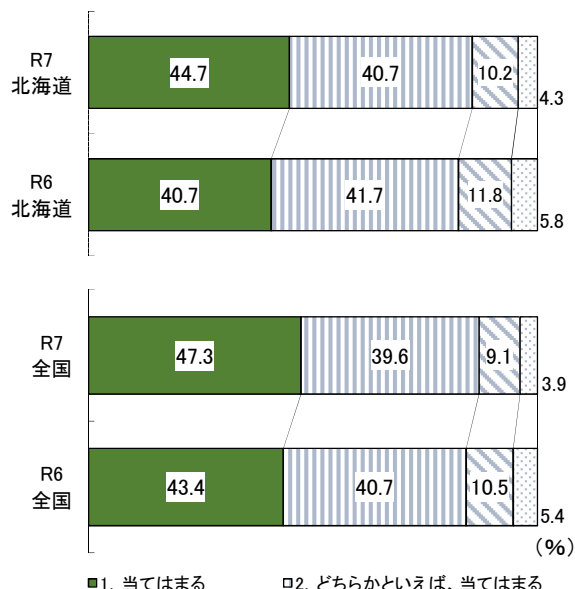
- 日本の社会・文化的背景を踏まえ、我が国においては、自己肯定感や自己実現などの獲得的な要素と、人とのつながりや利他性、社会貢献意識などの協調的な要素を調和的・一体的に育み、日本社会に根差した「調和と協調」に基づくウェルビーイングを教育を通じて向上させていくことが求められている。
- 中央教育審議会のウェルビーイングに関する資料「ウェルビーイングの向上」(令和5年2月)において、ウェルビーイングに関連する主観的指標として、次の項目が示されている。
 - ・自分にはよいところがあると思う
 - ・将来の夢や目標を持っている
 - ・先生は自分のよいところを認めてくれる
 - ・困りごとや不安がある時に先生や学校にいる大人にいつでも相談できる
 - ・自分と違う意見について考えるのは楽しい
 - ・友人関係の満足度
 - ・自分の幸福感
 - ・人が困っているときは進んで助けている
 - ・地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う
 - ・学級をよくするために互いの意見の良さを生かして解決方法を決める
 - ・勉強は好きと思う
 - ・授業の内容がよく分かる

①「自分には、よいところがあると思いますか」

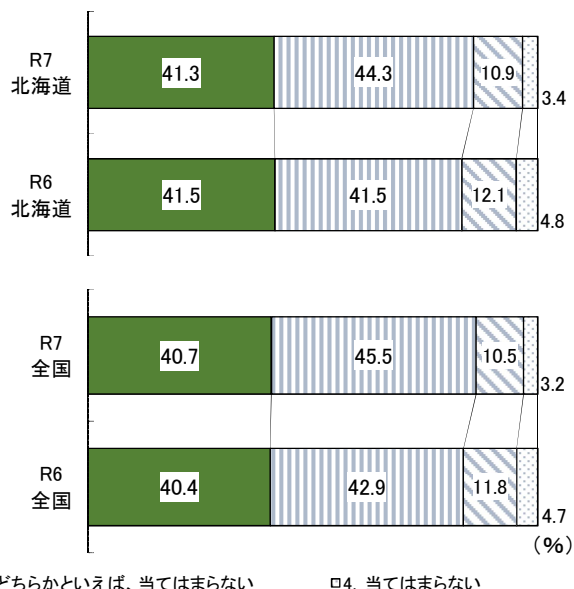
(児童生徒 質問番号 小5、中5)

「1. 当てはまる」と回答している児童生徒の割合は、令和6年度と比べて、小学校で4.0ポイント高く、中学校で0.2ポイント低い。全国と比べて、小学校で2.6ポイント低く、中学校で0.6ポイント高い。

〈小学校〉



〈中学校〉



■ 1. 当てはまる

■ 2. どちらかといえば、当てはまる

■ 3. どちらかといえば、当てはまらない

■ 4. 当てはまらない

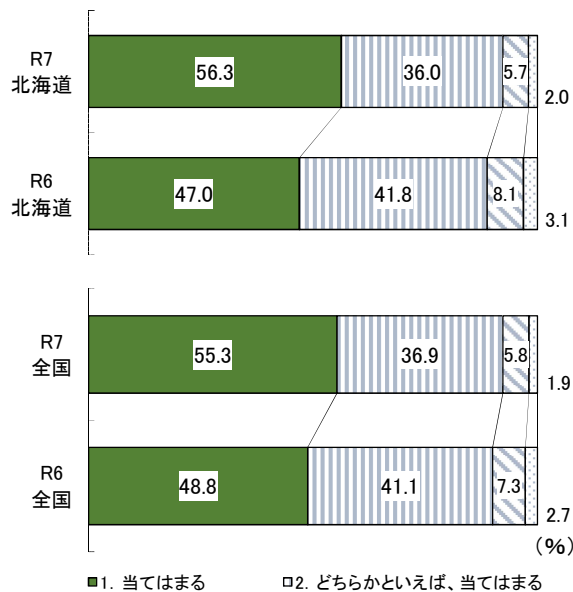
■ウェルビーイングの向上

②「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」

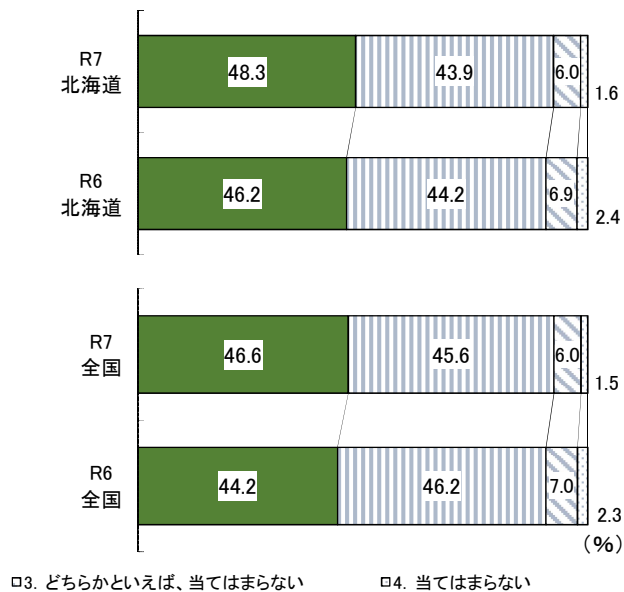
(児童生徒 質問番号 小6、中6)

「1. 当てはまる」と回答している児童生徒の割合は、令和6年度と比べて、小学校で9.3ポイント高く、中学校で2.1ポイント高い。全国と比べて、小学校で1.0ポイント高く、中学校で1.7ポイント高い。

〈小学校〉



〈中学校〉

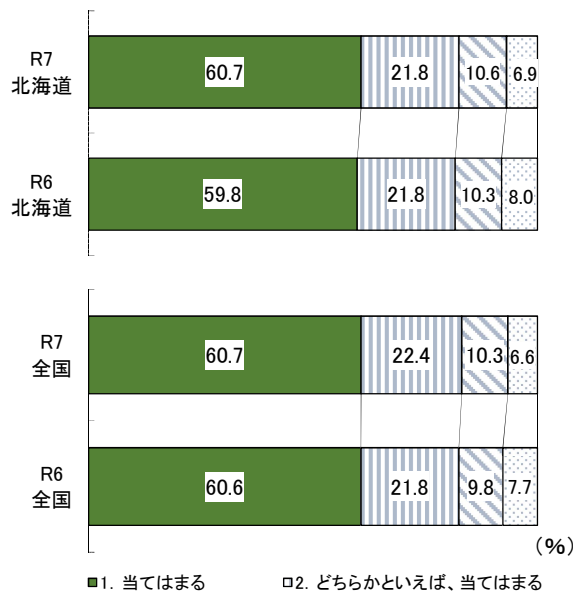


③「将来の夢や目標を持っていますか」

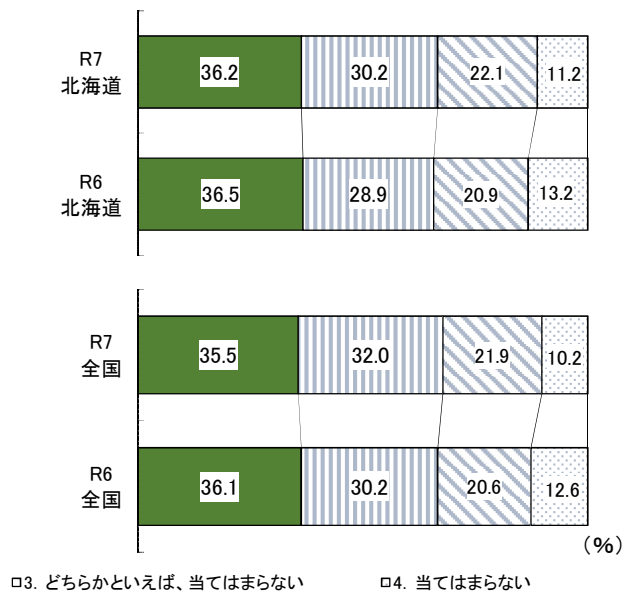
(児童生徒 質問番号 小7、中7)

「1. 当てはまる」と回答している児童生徒の割合は、令和6年度と比べて、小学校で0.9ポイント高く、中学校で0.3ポイント低い。全国と比べて、小学校で同じ、中学校で0.7ポイント高い。

〈小学校〉



〈中学校〉



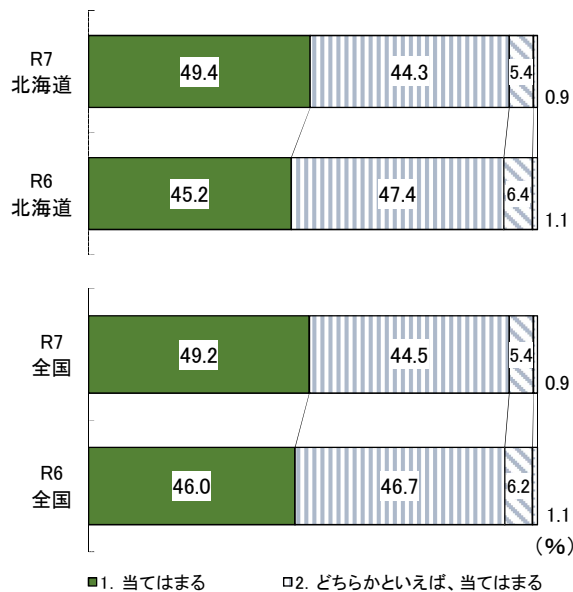
■ウェルビーイングの向上

④「人が困っているときは、進んで助けていますか」

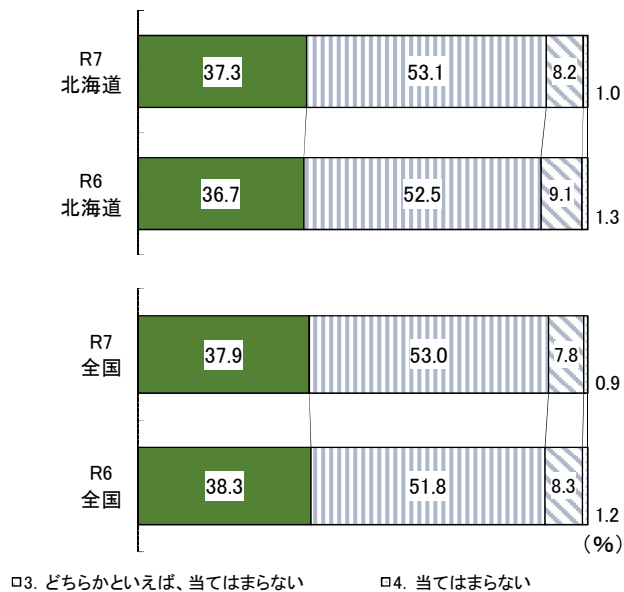
(児童生徒 質問番号 小8、中8)

「1. 当てはまる」と回答している児童生徒の割合は、令和6年度と比べて、小学校で4.2ポイント高く、中学校で0.6ポイント高い。全国と比べて、小学校で0.2ポイント高く、中学校で0.6ポイント低い。

〈小学校〉



〈中学校〉

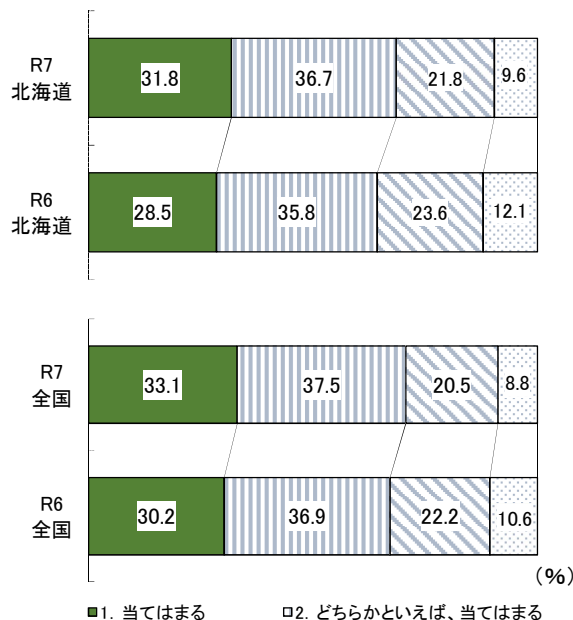


⑤「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」

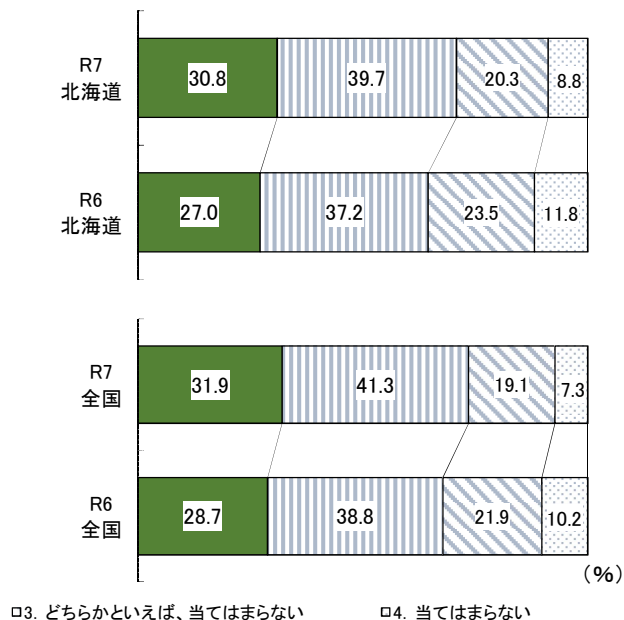
(児童生徒 質問番号 小10、中10)

「1. 当てはまる」と回答している児童生徒の割合は、令和6年度と比べて、小学校で3.3ポイント高く、中学校で3.8ポイント高い。全国と比べて、小学校で1.3ポイント低く、中学校で1.1ポイント低い。

〈小学校〉



〈中学校〉



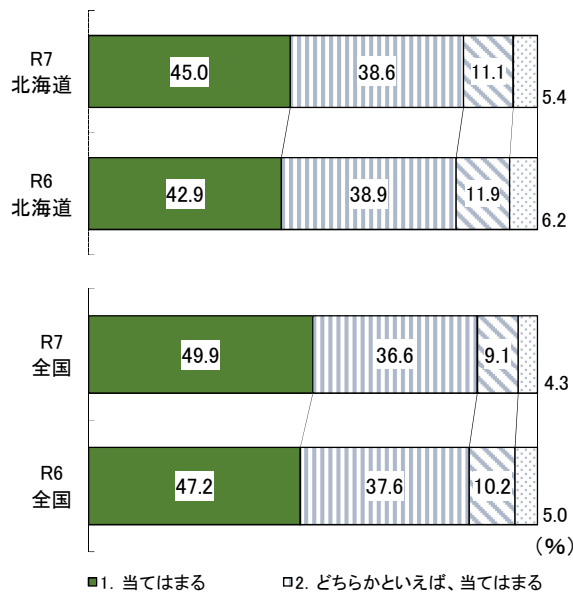
■ウェルビーイングの向上

⑥「学校に行くのは楽しいと思いますか」

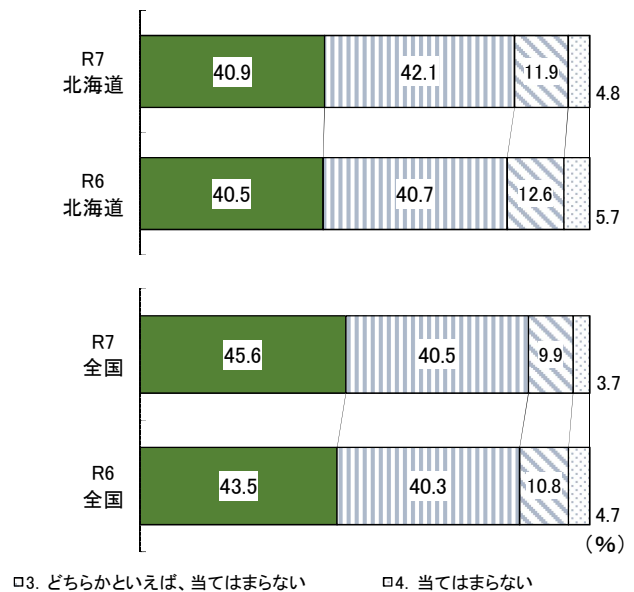
(児童生徒 質問番号 小12、中12)

「1. 当てはまる」と回答している児童生徒の割合は、令和6年度と比べて、小学校で2.1ポイント高く、中学校で0.4ポイント高い。全国と比べて、小学校で4.9ポイント低く、中学校で4.7ポイント低い。

〈小学校〉



〈中学校〉

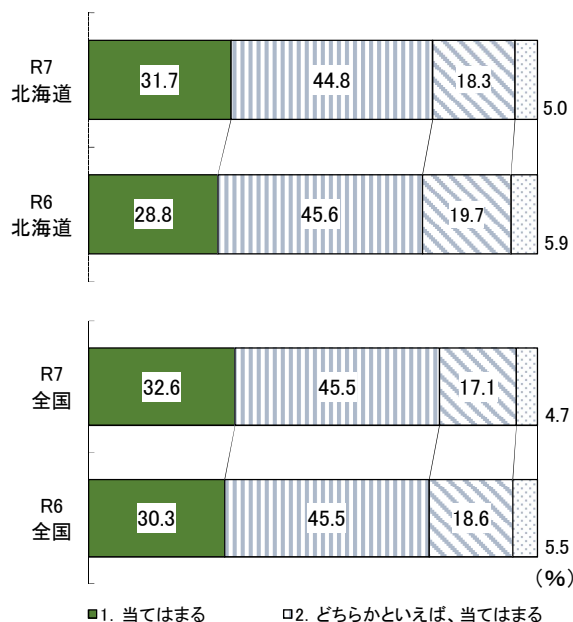


⑦「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」

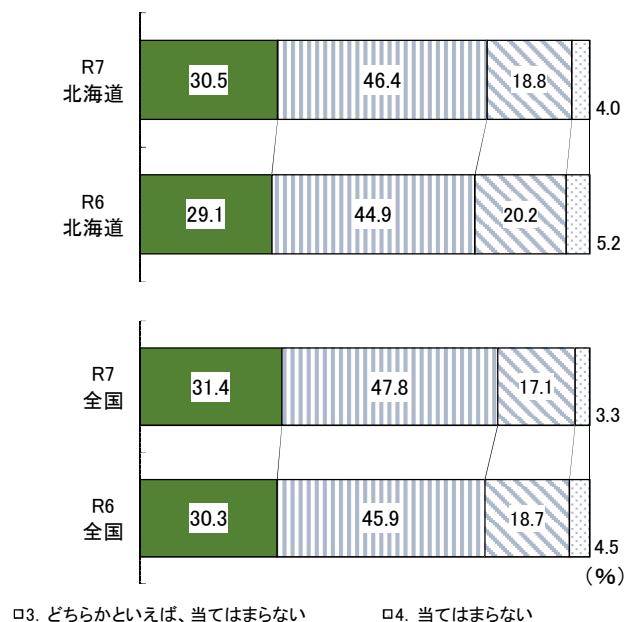
(児童生徒 質問番号 小13、中13)

「1. 当てはまる」と回答している児童生徒の割合は、令和6年度と比べて、小学校で2.9ポイント高く、中学校で1.4ポイント高い。全国と比べて、小学校で0.9ポイント低く、中学校で0.9ポイント低い。

〈小学校〉



〈中学校〉



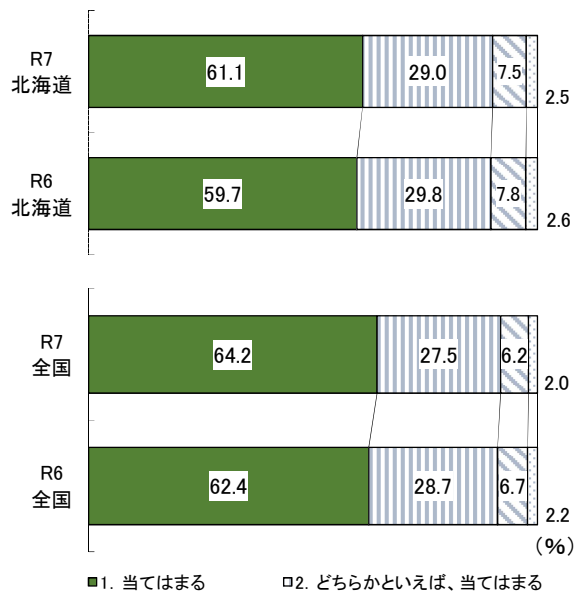
■ウェルビーイングの向上

⑧「友達関係に満足していますか」

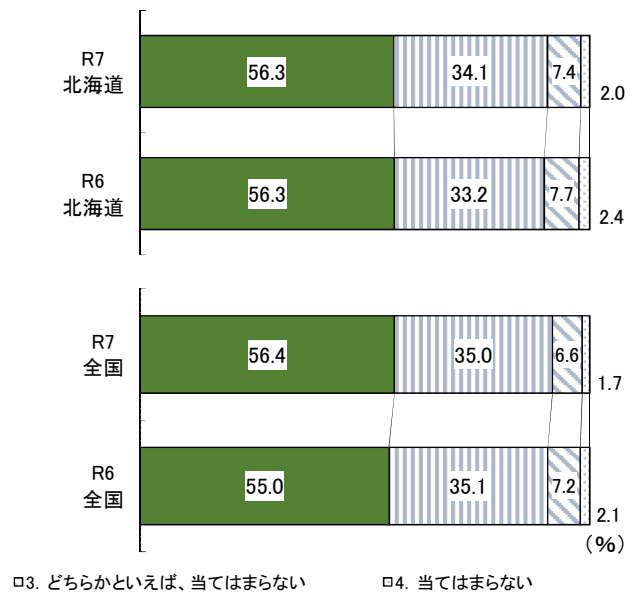
(児童生徒 質問番号 小14、中14)

「1. 当てはまる」と回答している児童生徒の割合は、令和6年度と比べて、小学校で1.4ポイント高く、中学校で同じ。全国と比べて、小学校で3.1ポイント低く、中学校で0.1ポイント低い。

〈小学校〉



〈中学校〉

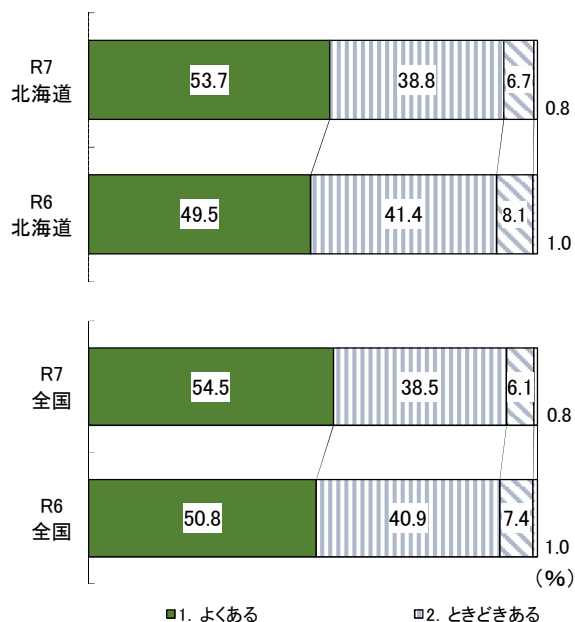


⑨「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか」

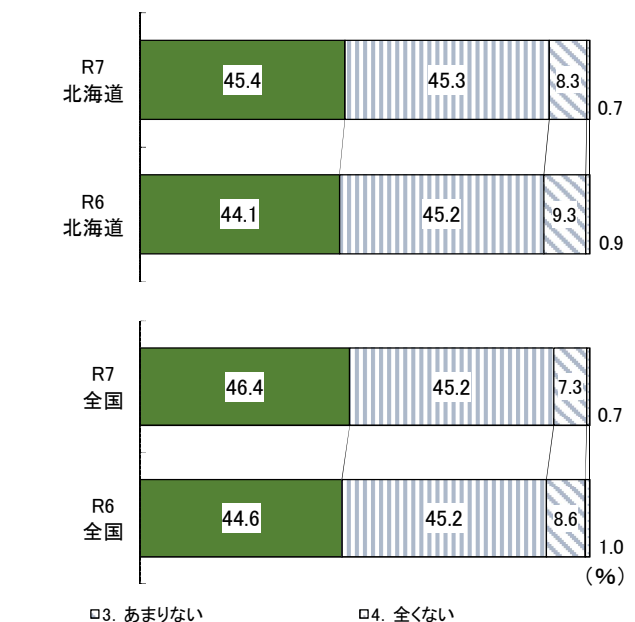
(児童生徒 質問番号 小15、中15)

「1. よくある」と回答している児童生徒の割合は、令和6年度と比べて、小学校で4.2ポイント高く、中学校で1.3ポイント高い。全国と比べて、小学校で0.8ポイント低く、中学校で1.0ポイント低い。

〈小学校〉



〈中学校〉



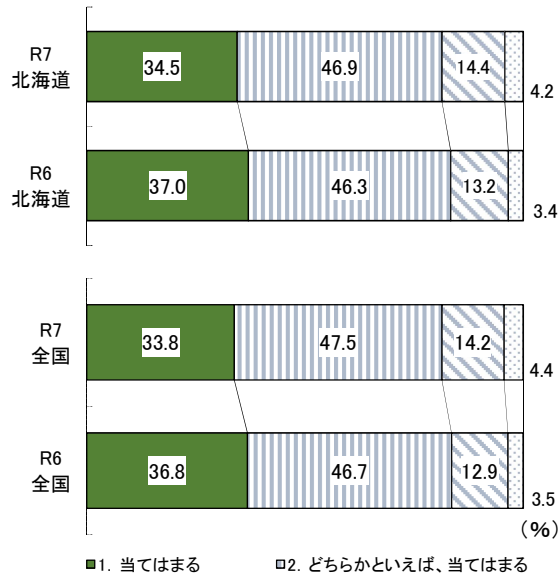
■ウェルビーイングの向上

⑩「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」

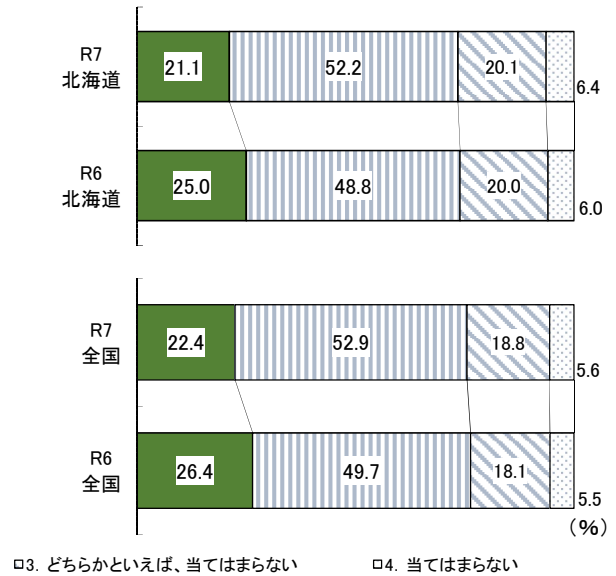
(児童生徒 質問番号 小27、中27)

「1. 当てはまる」と回答している児童生徒の割合は、令和6年度と比べて、小学校で2.5ポイント低く、中学校で3.9ポイント低い。全国と比べて、小学校で0.7ポイント高く、中学校で1.3ポイント低い。

〈小学校〉



〈中学校〉

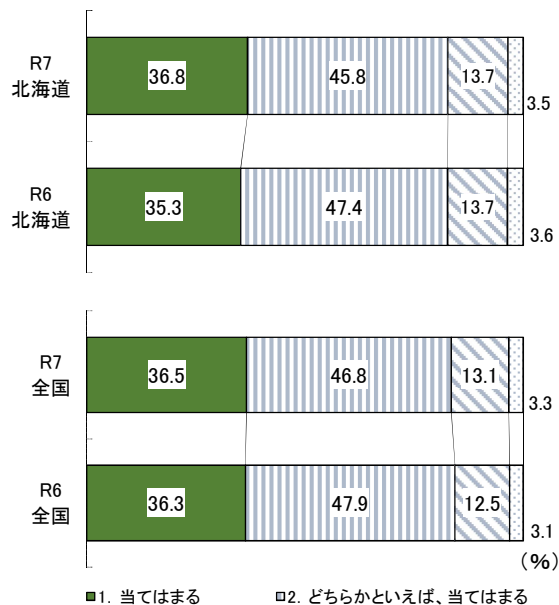


⑪「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか」

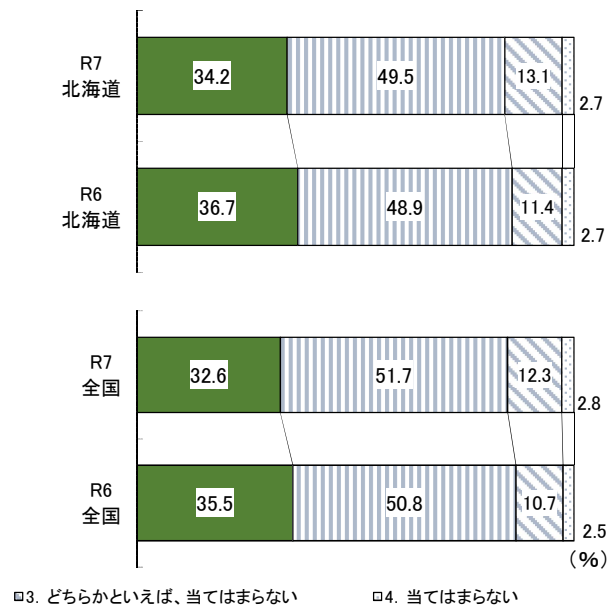
(児童生徒 質問番号 小41、中41)

「1. 当てはまる」と回答している児童生徒の割合は、令和6年度と比べて、小学校で1.5ポイント高く、中学校で2.5ポイント低い。全国と比べて、小学校で0.3ポイント高く、中学校で1.6ポイント高い。

〈小学校〉



〈中学校〉



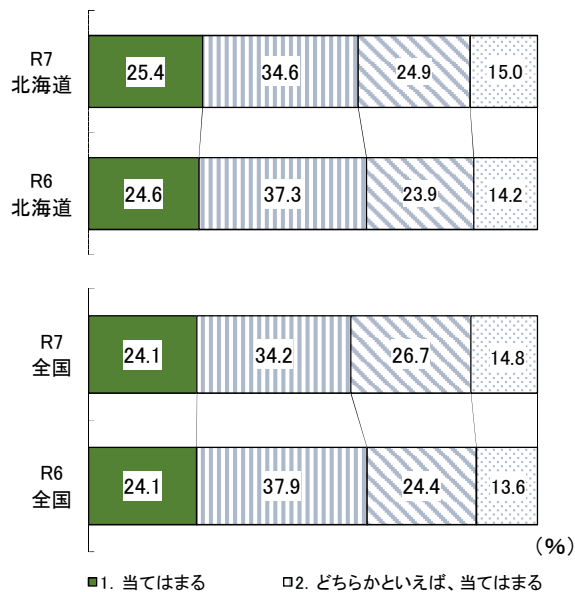
■ウェルビーイングの向上

⑫「国語の勉強は好きですか」

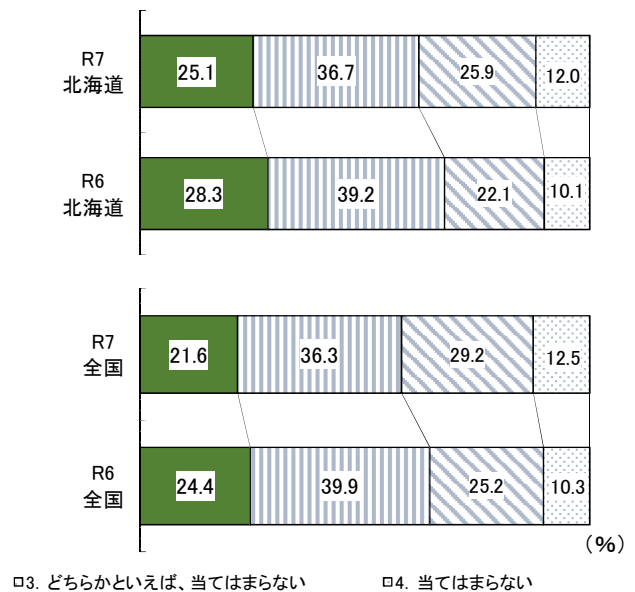
(児童生徒 質問番号 小45、中45)

「1. 当てはまる」と回答している児童生徒の割合は、令和6年度と比べて、小学校で0.8ポイント高く、中学校で3.2ポイント低い。全国と比べて、小学校で1.3ポイント高く、中学校で3.5ポイント高い。

〈小学校〉



〈中学校〉

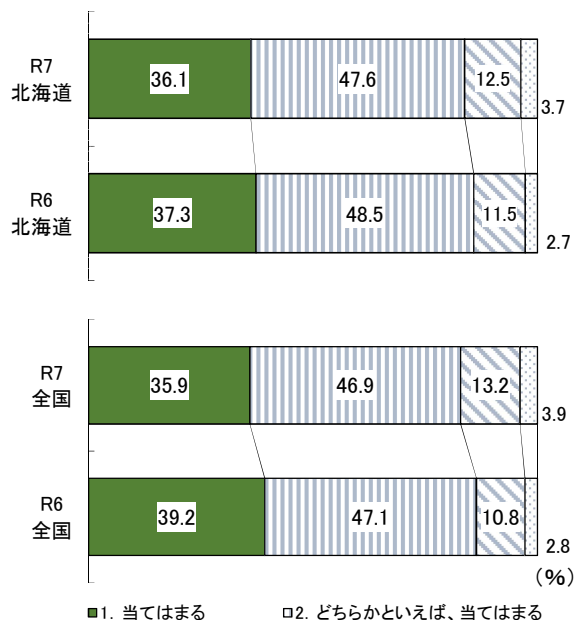


⑬「国語の授業の内容はよく分かりますか」

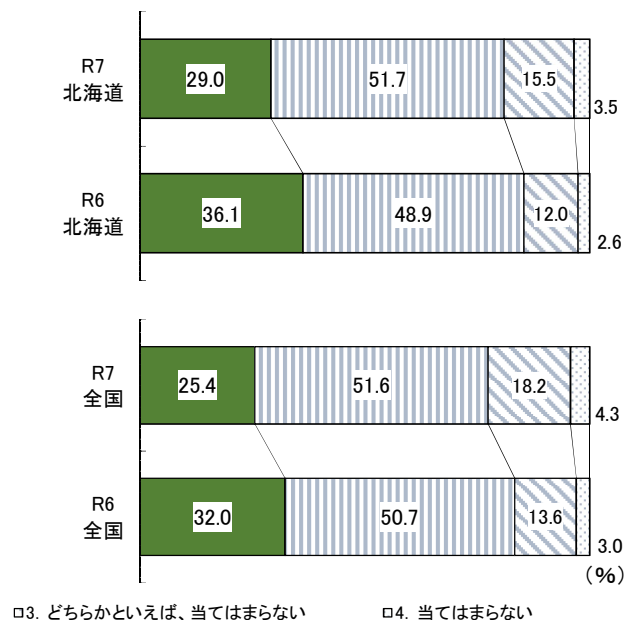
(児童生徒 質問番号 小46、中46)

「1. 当てはまる」と回答している児童生徒の割合は、令和6年度と比べて、小学校で1.2ポイント低く、中学校で7.1ポイント低い。全国と比べて、小学校で0.2ポイント高く、中学校で3.6ポイント高い。

〈小学校〉



〈中学校〉



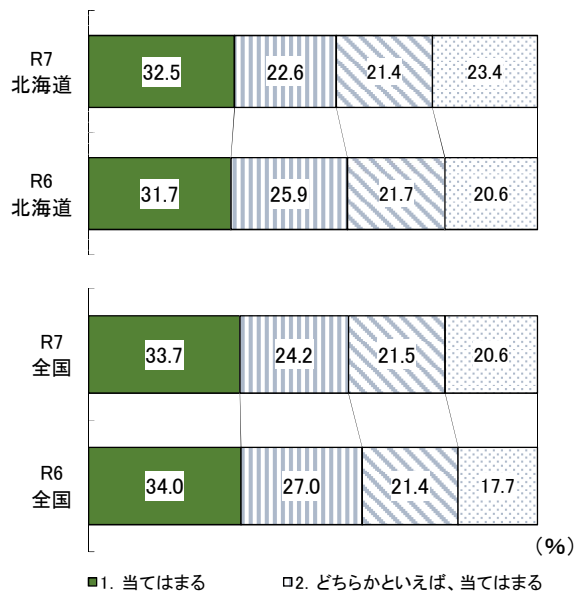
■ウェルビーイングの向上

⑭「算数・数学の勉強は好きですか」

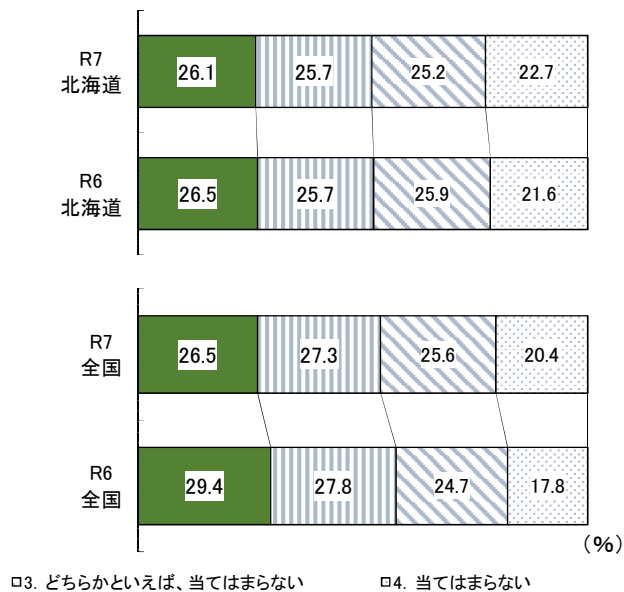
(児童生徒 質問番号 小53、中53)

「1. 当てはまる」と回答している児童生徒の割合は、令和6年度と比べて、小学校で0.8ポイント高く、中学校で0.4ポイント低い。全国と比べて、小学校で1.2ポイント低く、中学校で0.4ポイント低い。

〈小学校〉



〈中学校〉

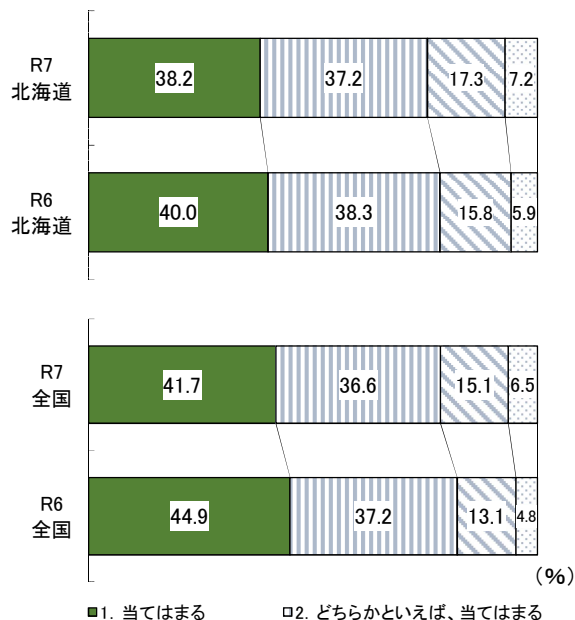


⑮「算数・数学の授業の内容はよく分かりますか」

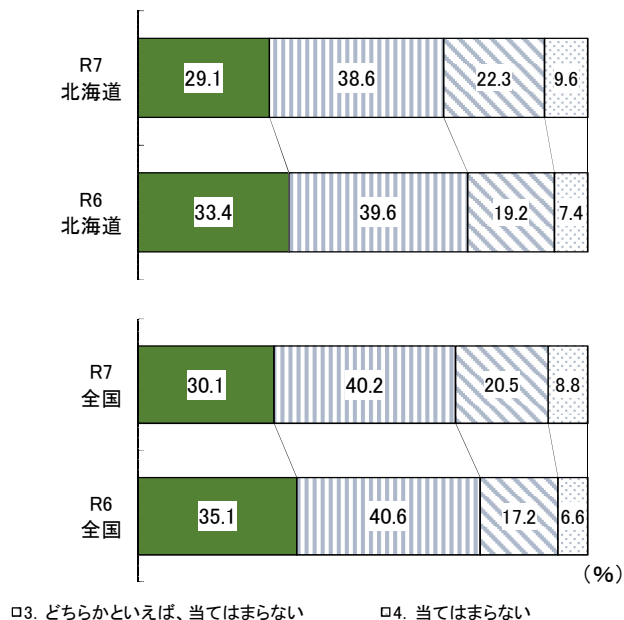
(児童生徒 質問番号 小54、中54)

「1. 当てはまる」と回答している児童生徒の割合は、令和6年度と比べて、小学校で1.8ポイント低く、中学校で4.3ポイント低い。全国と比べて、小学校で3.5ポイント低く、中学校で1.0ポイント低い。

〈小学校〉



〈中学校〉



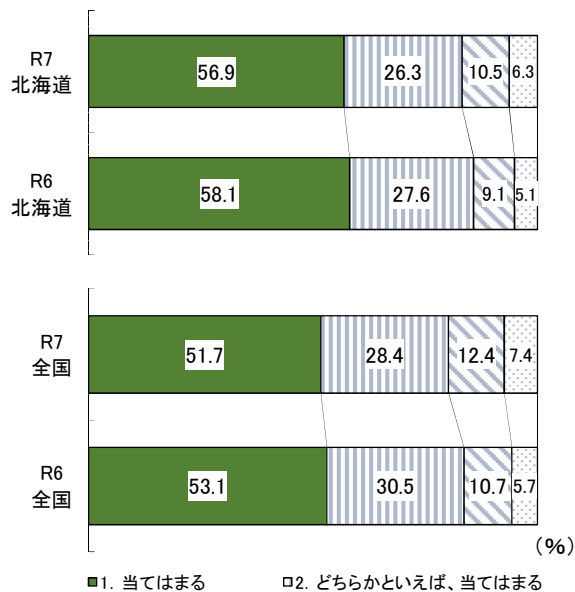
■ウェルビーイングの向上

⑩「理科の勉強は好きですか」

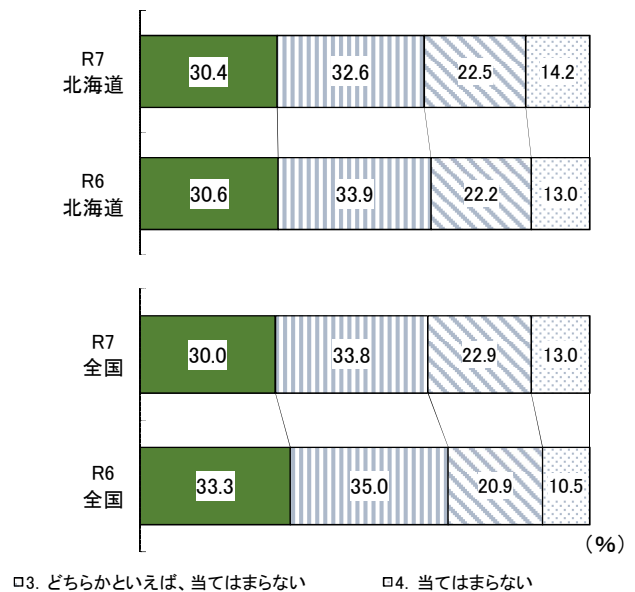
(児童生徒 質問番号 小61、中61)

「1. 当てはまる」と回答している児童生徒の割合は、令和6年度と比べて、小学校で1.2ポイント低く、中学校で0.2ポイント低い。全国と比べて、小学校で5.2ポイント高く、中学校で0.4ポイント高い。

〈小学校〉



〈中学校〉

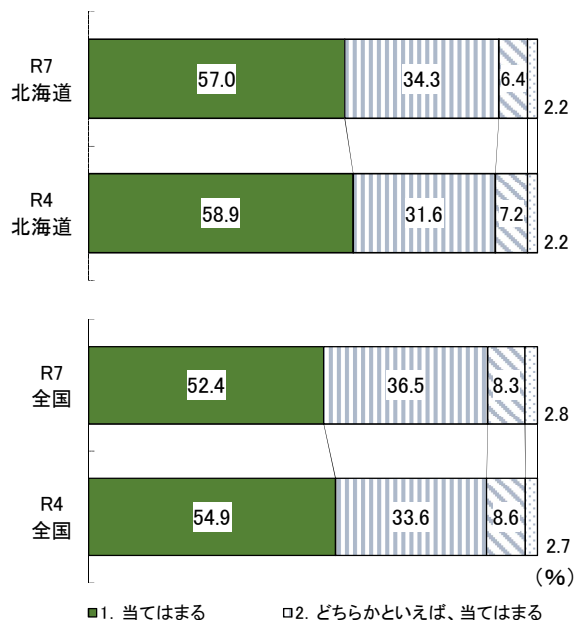


⑪「理科の授業の内容はよく分かりますか」

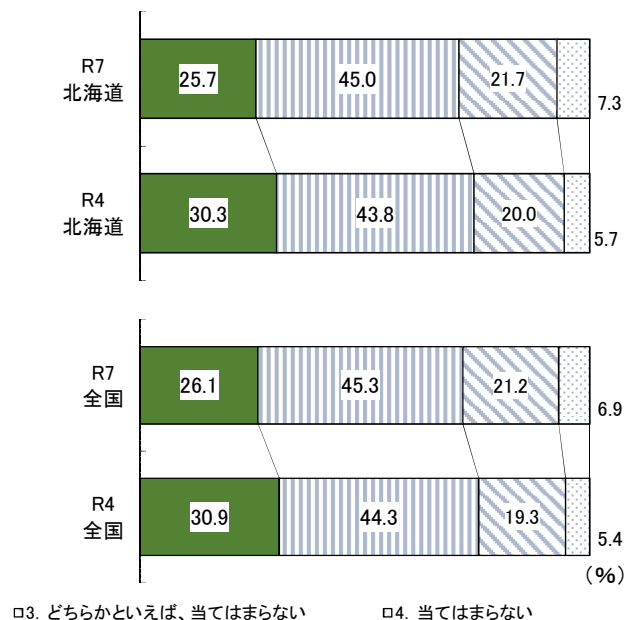
(児童生徒 質問番号 小62、中62)

「1. 当てはまる」と回答している児童生徒の割合は、令和6年度と比べて、小学校で1.9ポイント低く、中学校で4.6ポイント低い。全国と比べて、小学校で4.6ポイント高く、中学校で0.4ポイント低い。

〈小学校〉



〈中学校〉



【参考】札幌市を除く北海道の調査結果

国は指定都市を除く都道府県の調査結果も公表していることから、「札幌市を除く北海道の調査結果」の概要を掲載

1. 調査の概要

	対象学校数(校)	実施学校数(校) (実施率)	児童生徒数(人)
小学校	723	721 (99.7%)	20,628
中学校	465	460 (98.9%)	20,626
合計	1,188	1,181 (99.4%)	41,254

※ 実施学校数は、調査実施日に調査を実施した数

※ 児童生徒数は、教科に関する調査のうち、最も多くの児童生徒が実施した教科の人数で算出

2. 結果の概要

■ 教科に関する調査

【各教科の平均正答率、平均正答数及び平均IRTスコア】

※R7中学校理科は平均IRTスコア

		小学校			中学校			
		国語	算数	理科	国語	数学	理科	
平均 正答率 (%)	R7	道 (札幌市を除く)	65 [64.8]	53 [53.4]	56 [56.2]	53 [53.0]	44 [43.9]	499
		国	67 [66.8]	58 [58.0]	57 [57.1]	54 [54.3]	48 [48.3]	503
	R6 (R4)	道 (札幌市を除く)	67 [66.5]	59 [59.3]	63 [63.0]	56 [56.1]	49 [49.4]	48 [48.0]
		国	68 [67.7]	63 [63.4]	63 [63.3]	58 [58.1]	53 [52.5]	49 [49.3]
平均 正答数 (問)	R7	道 (札幌市を除く)	9.1 /14	8.5 /16	9.6 /17	7.4 /14	6.6 /15	—
		国	9.4 /14	9.3 /16	9.7 /17	7.6 /14	7.2 /15	—
	R6 (R4)	道 (札幌市を除く)	9.3 /14	9.5 /16	10.7 /17	8.4 /15	7.9 /16	10.1 /21
		国	9.5 /14	10.1 /16	10.8 /17	8.7 /15	8.4 /16	10.4 /21

※ 道の平均正答率：国が公表した整数値 [道教委が独自に算出した小数値]

※ 国の平均正答率：国が公表した小数値を、小数第1位で四捨五入した整数値 [国が公表した小数値]

※ 国語、算数・数学については、下段は令和6年度の結果、理科については、下段は前回調査のあった令和4年度の結果